

富山県舟橋村

# 竹内遺跡発掘調査報告

— 住宅団地造成事業に伴う平成25年度の調査 —

2014年3月

舟橋村教育委員会

## 序

立山山麓を源流とし富山平野の東側を北流する常願寺川。この常願寺川の扇状地端部の右岸に舟橋村は位置します。この常願寺川の豊富で清涼な伏流水が当村を潤し肥沃な大地にしており、古来より人々がその恩恵を受けて生活していました。

近年では、住みやすさや交通の便の良さなどから宅地開発が進んでいます。今回の調査も、宅地開発に伴い発掘調査を実施しました。

奈良から平安時代にかけての当村域は東大寺領莊園大藏莊の有力な比定地であり、今回の調査でもこの大藏莊が営まれた時期にあたる溝を確認し土師器・須恵器が出土しました。この須恵器には「淨子」と人名を墨書きしたと推測できるものも出土しました。室町時代になると、当村には仏生寺城が築かれます。今回の調査地区はこの仏生寺城の西側にあたり字名等からは家臣団の居住域と推測できます。今回の調査では井戸2基を確認しました。また珠洲、越前、中国製の白磁、天目茶碗、青磁などの遺物が出土しました。

これらの遺構・遺物は、当村の古代から中世にかけての歴史を知る上で貴重な資料となりました。

おわりに、本遺跡の調査にあたり富山県埋蔵文化財センターを中心関係各位、地元のみなさまにご援助・ご協力を頂きました。

衷心より感謝申し上げます。

平成26年3月

舟橋村教育委員会

教育長 高野 善信

## 例　　言

1. 本書は住宅団地造成事業に伴う竹内遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 当調査は、舟橋村教育委員会が主体となり富山県埋蔵文化財センターの協力の下、株式会社エイ・テックが実施した。
3. 調査地区は、中新川郡舟橋村竹内である。
4. 調査期間は以下の通りである。  
現地調査：平成25年8月26日～同年10月3日  
整理作業：平成25年8月26日～平成26年3月25日
5. 調査関係者は以下の通りである。  
〔富山県埋蔵文化財センター〕  
所長：安念 幹倫  
監督職員：神保 孝造（副主幹）  
〔舟橋村教育委員会〕  
教育長：高野 霽信  
監督職員：加藤 稔（主事）  
〔株式会社エイ・テック〕  
主任調査員：岡田 一広  
担当調査員：吉田 有里
6. 現地調査及び報告書作成において、以下の各氏・各機関より御教示・御援助を得た。  
川崎 晃、鈴木景二、藤田富士夫、三浦知徳、三浦重友美、三鍋秀典  
富山県教育委員会生涯学習・文化財室、富山県埋蔵文化財センター（順不同・敬称略）
7. 本調査の出土品及び発掘調査・整理作業に関する資料は舟橋村教育委員会が保管している。
8. 種子同定は島田亮仁氏（（公財）富山県文化振興財团）に報告していただいた。
9. 本書作成は神保の監修の下実施した。本書の編集は、岡田が担当した。本書の執筆分担は以下の通りである。  
第1章第1節～加藤、第2章～吉田、第3章第4節～島田、それ以外～岡田

## 凡　　例

1. 調査区の座標は、公共座標（世界測地系2011・第VI系）を基準に設定し、方位は座標北、標高は海拔高である。
2. 本書における遺構記号は、次の通りである。  
SD-溝、SE-井戸、SK-土坑、SP-ピット
3. 遺構個別図の縮尺は1/40を基本とし、その他の縮尺は図中に縮尺を明示した。
4. 本書における遺物番号は通し番号とし、遺物実測図、写真図版の右下に数字で表した。また、遺物実測図は1/3を基本とし、その他の縮尺は図中に明示した。
5. 土層説明および遺物の色調については、小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 『新版 標準土色帖』（2003年版）に準拠した。
6. 実測図中の塗り表現は以下の通りである。

遺構	遺物（土器類）
地山	須恵器
(断面)	(断面)
珠洲	赤彩
(断面)	(内外面)
灰釉	鉄釉系
(内外面)	(内外面)

## 目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡概観	2
第2章 調査の成果	5
第1節 調査概観	5
第2節 遺構	7
第3節 遺物	9
第4節 竹内遺跡における中世井戸出土の種実遺体群	13
第3章 総括	16

## 図面目次

- 図面01 遺構実測図 調査地区全体図（1／400）  
図面02 遺構実測図 遺構平面図〔1〕（1／200）  
図面03 遺構実測図 遺構平面図〔2〕（1／200）  
図面04 遺構実測図 遺構平面図〔3〕（1／200）  
図面05 遺構実測図 井戸・土坑実測図（1／40）  
図面06 遺構実測図 清土層断面図（1／40・1／60）  
図面07 遺物実測図 土器類（1／3）  
図面08 遺物実測図 土器類（1／3）  
図面09 遺物実測図 土器類（1／3）  
図面10 遺物実測図 土器類（1／3）  
図面11 遺物実測図 土器類（1／3）  
図面12 遺物実測図 土器類・その他の遺物（1／3・1／4）

## 図版目次

- 図版01 遺構 1. 調査地区全景（西）  
2. 調査地区全景（上方）  
図版02 遺構 1. 溝S D03全景（南）  
2. 井戸S E01全景（東）  
3. 井戸S E02全景（東）  
図版03 遺物 土器類 弦生土器・須恵器  
図版04 遺物 土器類 須恵器  
図版05 遺物 土器類 須恵器・珠洲・八尾・越前  
図版06 遺物 土器類 瓦質土器・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸  
図版07 遺物 1. 土器類 瀬戸美濃・肥前・伊万里  
2. その他の遺物 繩の羽口・部材・鉄滓・石棒・管玉未製品・行火・砾石・石臼

## 挿図目次

- |     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 第1図 | 調査地区位置図（1／5,000）     | 1  |
| 第2図 | 遺跡位置図（1／20万）         | 2  |
| 第3図 | 遺跡地図（1／1万5千）         | 4  |
| 第4図 | 基本層序模式図              | 6  |
| 第5図 | 管玉未製品実測図（実大）         | 10 |
| 第6図 | 竹内遺跡出土の種実遺体群         | 15 |
| 第7図 | 仏生寺城と周辺の小字名（1／5,000） | 16 |

## 挿表目次

- |     |           |    |
|-----|-----------|----|
| 第1表 | 土器類観察表〔1〕 | 11 |
| 第2表 | 土器類観察表〔2〕 | 12 |
| 第3表 | 種実同定結果一覧  | 14 |
| 第4表 | 分類群の記載    | 14 |

第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

試掘調查

民間事業者から仏生寺城跡西側隣接地区に宅地造成の計画がなされた。この事業計画を受けて平成24年11月28・29日にかけて富山県埋蔵文化財センターの指導のもと試掘調査を実施した結果、土坑・溝などの遺構を検出し、須恵器、珠洲等の遺物も出土したため埋蔵文化財の保護処置の必要があった。

分布調查

この事業地内は仏生寺城の城域より大部分が外れており、新たな遺跡が想定された。そこで平成25年3月18日に分布調査を実施し、本事業箇所より西側の範囲でも遺物が採取できたので新たな遺跡として登録する必要ができ、平成25年3月29日に新規に竹内遺跡として遺跡登録申請し、平成25年12月6日に登録完了した。

本発掘調査

本发掘調査は事業の関係上 9月末までの現地調査完了を目途に実施した。遺跡名称は、新規登録中であったが竹内遺跡として実施した。調査体制は、調査の監督職員として富山県埋蔵文化財センターが指導し、株式会社エイ・テックが実施することとなった。(加藤 稔)

(加藤 穂)



第1図 調査地区位置図（1/5,000）

## 第2節 遺跡概観

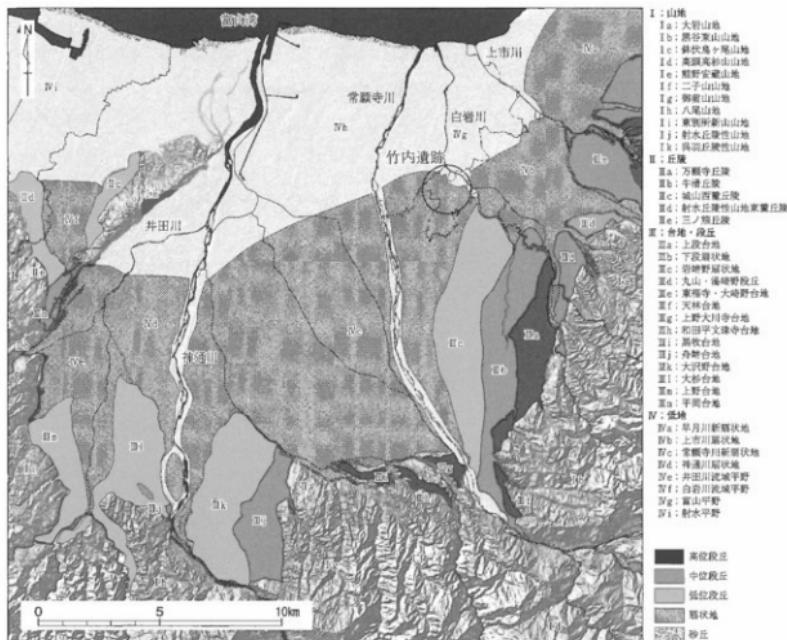
### 1. 環境

#### 地勢

富山県の東部に位置し南北に連なる立山連峰の北ノ俣岳（上ノ岳、標高2,662m）から発する常願寺川は、幹川流路延長56km、流域面積368km<sup>2</sup>の一級河川で、富山市水橋地内で富山湾に注ぐ。富山市上滝・立山町岩崎野付近を扇頂部とし、飛騨高地の川上岳（標高1,626m）から発する神通川とともに複合扇状地を形成し富山平野となる。現扇状地右岸には往古の扇状地が段丘化した上段台地や下段扇状地を形成する。

安政5（1858）年に起きた飛越地震にて大鳶山・小鳶山が崩壊し、その土砂が常願寺川支流の湯川が流れ立山カルデラ内で湯川を堰き止めた。このため土石流等の水害しばしば起こるようになり、明治時代に入り河川改修がなされ、立山カルデラには砂防ダム建設、下流ではJR水橋駅周辺で白岩川と合流していたが分離し現在の流路となった。

白岩川は大辻山（標高1,361m）に発し、幹川流路延長29.1km、流域面積134km<sup>2</sup>の二級河川である。舟橋村



第2図 遺跡位置図 (1/20万)

舟橋付近で柄津川と合流した後、下流域は蛇行が大きくなり後背湿地を形成する。水量が豊富で流れが緩やかなため水運が発達した。

#### 地誌

舟橋村は常願寺川右岸、扇状地の扇端部に位置し、北東端部では白岩川と柄津川が合流しかつては大きく蛇行しながら北流する。下国重・上国重・竹内・稻荷・舟橋・新吉島・仏生寺・海老江・竹鼻・立野・古海老江・葦高・東葦原・白髪の13村が明治22（1889）年に合併し上新川郡舟橋村となった。明治29（1896）年に上新川郡を上・中の2郡に分割したため舟橋村は中新川郡に属した。

村の北部には富山市新庄で北陸街道から分岐し上市へ抜ける上市往来（県道4号線）が東西方向に走る。県道4号線に並行して富山地方鉄道本線が走り、立山町寺田駅で立山線が分岐し南方向に走る。

## 2. 遺跡の分布状況

### 古墳時代以前

旧石器時代は上段台地上に立地する立山町白岩戸ノ上遺跡や吉峰遺跡で確認されている。当村域では、浦田遺跡でナイフ形石器の可能性があるものが出土する。

縄文時代は当村域にある各遺跡から遺物が出土するが遺構は確認されていない。周辺には富山市水橋金広・中馬場遺跡、立山町ニッ塚遺跡、五郎丸遺跡、利田横枕遺跡等がある。

弥生時代は白岩川流域を中心に遺跡が分布し、浦田遺跡、利田横枕遺跡、竹内東芦原遺跡、仏生寺城跡、富山市新堀西遺跡、上市町放士ヶ瀬北遺跡、江上遺跡群等がある。浦田遺跡、利田横枕遺跡、仏生寺城跡では中期の土器が出土する。放士ヶ瀬北遺跡や立山町浦田遺跡等では中部高地系土器である栗林式が出土する。浦田遺跡等では後期初頭から中葉にかけての東北系土器である天王山系土器が出土する。

古墳時代は弥生時代に引きつき白岩川流域に遺跡が分布し、またこの流域に多くの古墳が築造される。当村内に所在する竹内天神堂遺跡は古墳時代前期の前方後方墳で全長38m、高さ8mを測る。そのほかに、中期には富山市清水堂古墳（円墳）、若王子古墳（円墳）、宮塚古墳（方墳）、立山町稚兒塚古墳（円墳）、塚越古墳（円墳）がある。集落は仏生寺城跡、富山市新堀西遺跡、立山町利田横枕遺跡等がある。

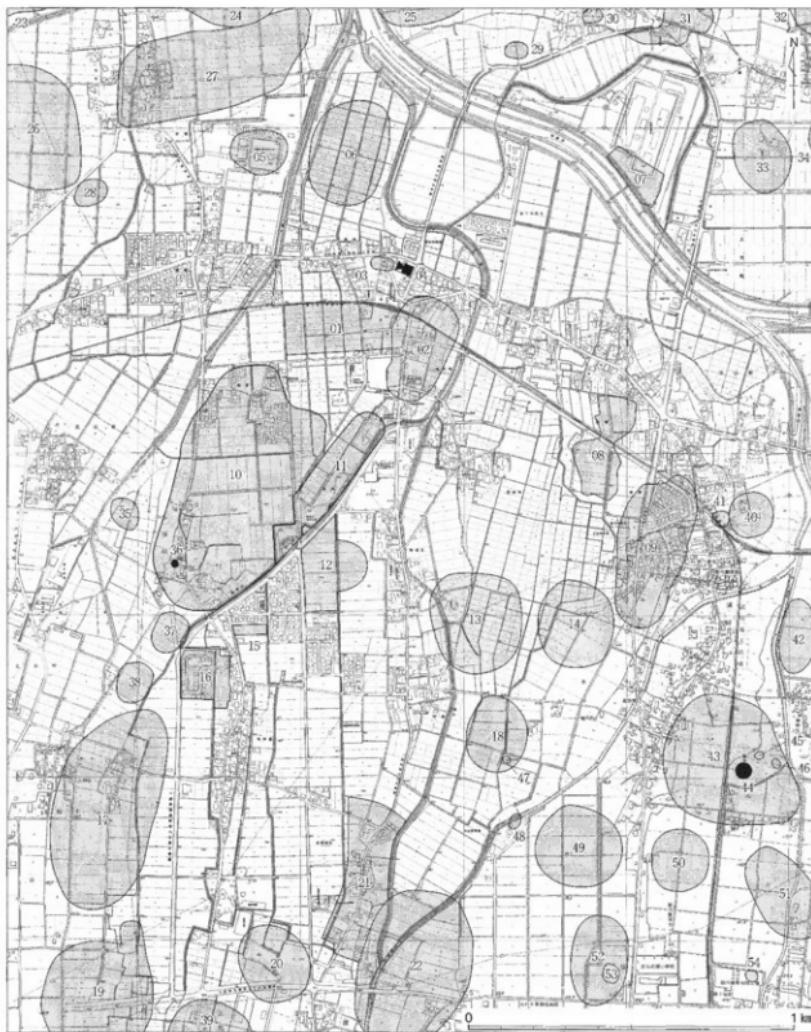
### 古代

古代の当村域は東大寺領大蔵荘の有力な比定地になっている（藤田1998他）。当該期の遺跡として仏生寺城跡、浦田遺跡、竹内東芦原遺跡等があり、8世紀後半から10世紀代にかけて存続する。仏生寺城跡では堅穴式住居・掘立柱建物を検出し、底面に「吉万呂」と墨書きした須恵器杯Bが出土した。浦田遺跡では掘立柱建物・溝等、竹内東芦原遺跡では竪状遺構を検出した。また、立山町辻遺跡では「里正」木簡が出土した。

### 中世以降

中世前期の遺跡はあまり確認できず、仏生寺城跡でその前身となる土坑等を検出している。中世後期になると当村域は高野荘に属し、その中心的施設として仏生寺城が築かれる。仏生寺城の成立は15世紀中ごろと推定される。規模は越中志徹等によると、東西六十間（108m）、南北九十間（162m）、堀幅五間（9m）とする。繩張りは連郭式平城と推定されている（高岡1980）。城主は細川曾十郎（宗十郎・惣十郎）が知られている。付近には関連施設として竹内館跡や馬場を白岩川の対岸に築いたことから中馬場等の地名の由来になったとする。仏生寺城は16世紀には廃絶する。

（岡田一広）



第3図 遺跡地図 (1 / 1万5千)

01. 竹内遺跡、02. 佐生寺城跡、03. 竹内神明社宮遺跡、04. 竹内天神堂古墳、05. 国重遺跡、06. 竹内館跡、07. 舟橋Ⅰ遺跡、08. 小平遺跡
09. 浦田遺跡、10. 塚越Ⅰ遺跡、11. 竹内東芦原遺跡、12. 海老江遺跡、13. 渕田馬渡し遺跡、14. 渕田西反遺跡、15. 東芦原西角堂遺跡
16. 東芦原遺跡、17. 鋸ノ木Ⅰ遺跡、18. 渕田石畠遺跡、19. 利田横枕遺跡、20. 横沢Ⅱ遺跡、21. 古海老江遺跡、22. 横沢Ⅰ遺跡
23. 金尾新西遺跡、24. 新祖東遺跡、25. 木橋金広・中馬場遺跡、26. 新堀西遺跡、27. 新堀遺跡、28. 新屋Ⅱ遺跡、29. 清水堂Ⅱ遺跡
30. 清水堂宗平原遺跡、31. 清水堂南遺跡、32. 放士ヶ瀬北遺跡、33. 放士ヶ瀬南遺跡、34. 放士ヶ瀬西遺跡、35. 塚越Ⅲ遺跡、36. 塚越古墳
37. 塚越Ⅱ遺跡、38. 鋸ノ木Ⅱ遺跡、39. 五郎久遺跡、40. 渕田柳町遺跡、41. 大明神経塚、42. 寺田三十石遺跡、43. 浦田前田遺跡
44. 稲子塚古墳、45. 瓢塚、46. 服部塚、47. 大敷塚、48. 斎田経塚、49. ニッホウ畑田遺跡、50. 若林辯子山遺跡、51. 若林大久塚跡
52. ニッホウ遺跡、53. ニッホウ経塚、54. 寺田東大野遺跡

## 第2章 調査の成果

### 第1節 調査概観

#### 1. 発掘調査の経過

##### 調査対象地

調査対象地は住宅団地造成に伴う道路部分の788m<sup>2</sup>である。試掘調査結果から東西方向の流路を確認しており、富山県埋蔵文化財センターと舟橋村が協議し、調査対象地周辺を含めてこの流路の全体の検出をすることにした。周辺を含めて調査面積は1,239m<sup>2</sup>である。遺構掘削は調査対象地のみとし、流路は約30cmの段下げに止め、2箇所の断面観察用の断割りを実施することにした。

##### 現地調査

現地調査は、平成25年8月26日から同年10月3日にかけて実施した。現地調査事務所設営・資材搬入等の準備工の後、8月28日からバックホウによる重機掘削を東側から実施した。9月4日より重機掘削が終った箇所から人力による遺構検出を実施した。9月18日より遺構掘削を開始し、9月27日にラジコンヘリコプターで全景を撮影した。全景撮影後、自然流路S D01・02と井戸S E02の断割りをバックホウで実施し、10月5日に現地調査を完了した。調査期間中の9月25日に舟橋小学校の児童を対象に現地見学会を実施した。

写真撮影は中判・35mm判のカラー・モノクロネガフィルムおよび35mmフルサイズデジタルカメラ（3680万画素）で記録した。測量はトータルステーション等で実施した。

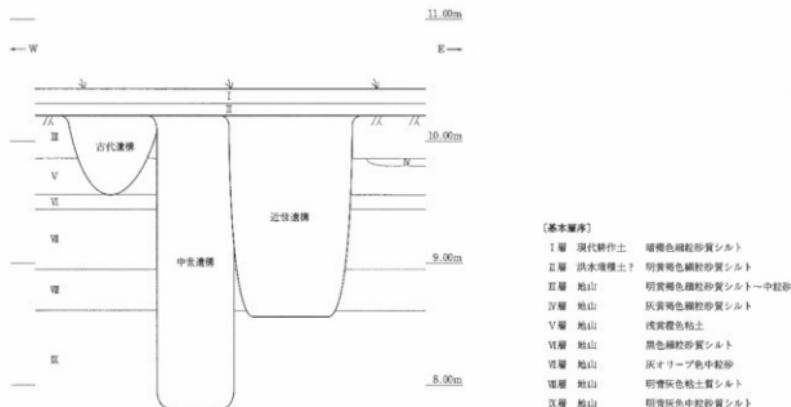
##### 整理作業

整理作業は、平成25年8月26日から翌26年3月25日まで実施した。遺物の水洗は一部を現地調査事務所で実施し、それ以降の作業は株式会社エイ・テック（本社：富山県高岡市）で実施した。井戸S E01・02における底面の土壤サンプルを現地で採取し、フローテーション法で土壤洗浄し種子等の植物遺体を探取した（第2章第4節参照）。報告書掲載遺物は実測後Adobe Illustrator®にてデジタルトレースした。遺物写真は中判2170万画素のデジタルスチールカメラで撮影した。報告書編集はAdobe Creative Suite®で実施した。

#### 2. 調査の概要

##### 基本層序

現在の耕作土である暗褐色細粒砂質シルト（I層）の下は、地山である明黄褐色細粒砂質シルト～粗粒砂（III層）で、古代以降の遺構検出面はIII層上面である。I層とIII層の間には部分的に明黄褐色細粒砂質シルト（II層）が堆積しており、調査地区の東側で主に検出した。安政5（1858）年の飛越地震に伴う洪水堆積土とも考えられるが、部分的であることから近年の圃場整備時の客土の可能性もある。また、III層下で調



第4図 基本層序模式図

査地区東側においてのみ灰黃褐色細粒砂質シルト（IV層）があり、それ以下は総じて浅黃橙色粘土（V層）、黒色細粒砂質シルト（VI層）、灰オリーブ色中粒砂（VII層）、明青灰色粘土質シルト（VIII層）、明青灰色中粒砂質シルト（IX層）の順に堆積する。

#### 検出遺構

検出遺構は次の通りである。

井戸2基（S E01・02）

自然流路・溝11条（S D01～11）

土坑4基（S K01～04）

ピット2基（S P01・02）

#### 出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器類：弥生土器、土師器、須恵器、製塙土器、珠洲、八尾、越前、瀬戸美濃、白磁、天目茶碗、青磁、越中瀬戸、肥前、伊万里

土製品：罐の羽口

木製品：部材

鉄滓：椀型滓

石製品：石棒、管玉未製品、行火、砥石、石臼

#### グリッド

調査地区的グリッドは世界測地系（測地成果2011）の平面直角座標系の第VII座標系（原点は北緯36° 00' 00"・東経137° 10' 00"）に合わせた。東西をX軸、南北をY軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、X = 1, Y = 1 の地点は、原点より東へ12.455km、北へ78.160km向かった位置である。一辺5m四方を一区画としてグリッドを割付け、メッシュを表示した。

（岡田一広）

## 第2節 遺構

### 1. 井戸

#### S E01

調査地区の西側（3、10）区で検出した。平面形は円形で、規模は直径0.70m、深さ0.99mを測る。出土した遺物は、珠洲、木製品（部材）である。

#### S E02

調査地区的北東側（12、7）区で検出した。平面形は円形で、規模は直径0.88m、深さ2.08mを測る。出土した遺物は、土師器、須恵器、珠洲、越前、伊万里である。

### 2. 自然流路・溝

#### S D01

調査地区的南側（2～18、3～7）区で検出した。東西方向に走る自然流路である。規模は長さ77.85m以上、幅9.53m、深さ1.54mを測り、S D03・08、SK04を切り、S D02・09～11に切られる。東側および西側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塙土器、珠洲、八尾、瓦質土器、瀬戸美濃、白磁、青磁、越中瀬戸、肥前、伊万里、石製品（砥石・行火）、木製品（板材・部材）である。

#### S D02

調査地区的西側（5～7、3～8）区で検出した。南北方向に走る自然流路である。規模は長さ27.22m以上、幅7.64m、深さ1.46mを測り、S D01を切る。南側および北側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、須恵器、製塙土器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、石製品（砥石）、木製品（板材）である。

#### S D03

調査地区的東側（11～14、3～6）区で検出した。北東～南西方向に走る溝である。規模は長さ18.66m以上、幅7.67m、深さ0.36～0.46mを測り、S D01に切られる。北東側および南西側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塙土器である。

#### S D04

調査地区的北部（3～4、12）区で検出した。北西～南東方向に走る自然流路である。規模は長さ5.34m以上、幅3.52m、深さ1.42m以上を測る。北西侧および南東側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塙土器、珠洲、土製品（轡の羽口）、木製品（板材）である。

#### S D05

調査地区的西側（3、8）区で検出した。東西方向に走る溝である。規模は長さ3.58m、幅0.43m、深さ0.10mを測る。遺物は出土していない。

#### S D06

調査地区的北側（3、11）区で検出した。東西方向に走る溝である。規模は長さ2.53m、幅0.64m、深さ0.24mを測る。出土した遺物は、土師器である。

#### S D07

調査地区の北側（2～3、12）区で検出した。東西方向から北西～南東方向に緩く湾曲する溝である。規模は長さ4.65m、幅0.72m、深さ0.26～0.65mを測る。遺物は出土していない。

#### S D08

調査地区的西側（2～7、7・8）区で検出した。東西方向に走る溝である。規模は長さ22.80m以上、幅1.05m、深さ0.40mを測り、S D01・02・11に切られる。東側および西側は調査地区外へ延びる。（7、7）区でS D01に切られておりそれより東側は明確に検出できなかつたが、（10、5・6）区でS D01の裁割にて断面で確認することができ、裁割までの長さを含めると、38.0m以上となる。遺物は出土していない。

#### S D09

調査地区的南側（9～10、4～5）区で検出した。南北方向から東西方向に屈曲する溝である。規模は長さ9.17m以上、幅0.43m、深さ0.13mを測り、S D01を切る。遺物は出土していない。

#### S D10

調査地区的中央部（9～10、6～7）区で検出した。北西～南東方向から南北方向に屈曲する溝である。規模は長さ5.27m以上、最大検出幅1.32m、深さ0.32mを測り、S D01を切る。北側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、須恵器である。

#### S D11

調査地区的西側（3～4、5～8）区で検出した。南北方向に走る溝である。規模は長さ15.49m以上、幅2.44m、深さ0.75mを測り、S D01を切る。南側および北側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、珠洲、越中瀬戸、瀬戸美濃である。

### 3. 土坑

#### S K01

調査地区的西側（3～4、9）区で検出した。平面形は方形である。長軸3.16m、短軸2.21m、深さ0.29mを測り、東側は調査区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、須恵器、珠洲、越前、伊万里である。

#### S K02

調査地区的東側（13、7）区で検出した。平面形は円形で北側は調査区外へ延びる。長軸0.66m、短軸0.39m以上、深さ0.72mを測る。遺物は出土していない。

#### S K03

調査地区的北側（2、12）区で検出した。部分的な検出のため平面形は不明である。長軸0.86m以上、短軸0.72m以上、深さ0.26mを測る。出土遺物は珠洲である。

#### S K04

調査区の西側（3、7）区で検出した。平面形は円形である。規模は直径0.58m、深さ0.71mを測り、S D01に切られる。遺物は出土していない。

（吉田有里）

## 第3節 遺 物

### 1. 弥生土器

壺 図面07-1～3。弥生時代中期、小松式の壺の底部である。

高杯 図面07-4。弥生時代終末期、白江式の高杯の脚部である。

鉢 図面07-5・6。弥生時代終末期、白江式の鉢である。5は口縁部で、2条の擬凹線を施す。内外面を赤彩する。6は台付鉢の脚部である。

壺 図面07-7。弥生時代終末期、白江式の壺である。口縁部で、5条の擬凹線を施す。

### 2. 古墳時代・古代の土器類

#### 土師器

椀 図面07-8。椀の口縁部である。

壺 図面07-9～12。9は口縁部である。10は口縁部から胴上部にかけてのものである。11・12は底部である。11の底面は回転糸切りである。12の底面は静止糸切りである。

#### 須恵器

杯H 図面07-13。立ち上がりと受け部をもつ杯身である。底部はヘラ切り後ナデを施す。

杯A 図面07-14～24、図面08-25～28。高台の付かない杯である。14～24は口縁部をロクロナデで形成後底面を回転ヘラ切りする。25～28は底部である。25の底面が回転ヘラ切りで、「淨子」と墨書する。26～28は底面が回転糸切りである。

杯B 図面08-29～39。高台が付く杯である。29～32・34～38は口縁部をロクロナデで形成後底面を回転ヘラ切りし、高台を貼付ける。33は口縁部である。39はロクロナデで整形し回転糸切りでロクロから切り離し後、ロクロナデで高台を作り出したものである。

杯蓋 図面08-40～50。杯蓋の調整はヘラ切り後天井部の一部をケズリを施し、つまみを貼付けるものを基調とする。つまみは48のみ遺存しており宝珠形である。44は天井部が回転糸切りである。

壺 図面09-51。口縁部外面はハケメ後ロクロナデを施す。

長頸瓶 図面09-52。長頸瓶の口縁部である。

瓶類 図面09-53・54。53は双耳瓶等の胴上部である。外面は自然粧が付着する。53は底部である。

製塙土器 図面09-55～57。深鉢形の製塙土器である。55は胴部である。56・57は底部である。

### 3. 中近世の土器類

珠洲 図面09-58～63、図面10-64～70。58～63は摺鉢である。58～60は口縁部、61は体部、62・63は底部である。64～67は壺である。64～66は口縁部、67は底部である。68～70は壺である。68・69は口縁部、70

は底部である。

八尾 図面10-71。壺の胴部である。

越前 図面10-72・73。72は壺鉢の口縁部である。73は壺の頸部～胴上部にかけてのものである。

瓦質土器 図面11-74。火鉢の胴部である。1条の突帯と印花文を施す。

瀬戸美濃（中世） 図面11-75。皿の底部である。内面は丸ノミでソギ、見込みに菊印花文を施す。

白磁 図面11-76。碗の底部である。見込みは蛇の目釉剥ぎである。

天目茶碗 図面11-77。中国製の天目茶碗である。断面に漆繋ぎ痕がある。

青磁 図面11-78～83。78～81は碗である。78は口縁部で外面に鎧蓮弁文を施す。79～81は底部である。81は見込みに花文を施す。82・83は盤の底部である。

越中瀬戸 図面11-84～96。84～90は皿である。いずれも口縁部を施釉する。86は長石釉、89は鉄釉である。90は鉄釉を施し、釉の掛け具合から灰釉との相掛けのものと推定できる。それ以外は灰釉である。91～93は段重である。92は見込みに菊印花文を施す。94は匣鉢の口縁部である。95は香炉の口縁部である。96は壺の底部である。

瀬戸美濃（近世） 図面12-97・98。97は碗の底部である。98は皿である。

肥前 図面12-99～101。皿である。99は波佐見窯で見込みに目跡が残る。100・101は内野山窯である。

伊万里 図面12-102・103。102は碗の口縁部である。103は皿の底部である。

#### 4. その他の遺物

土製品 図面12-104。縄の羽口の尖端部で外面の一部がガラス質となる。推定外径6.8cm、推定内径1.8cmを測る。出土遺構はSD04である。

木製品 図面12-105。先端にホゾを持つ部材である。全長14.7cm、全幅5.6cm、全厚4.3cmを測る。出土遺構はSE02である

鉄滓 図面12-106。椀型滓である。最大長3.2cm、最大幅4.4cm、最大厚2.3cm、重量45.0gを測る。

石製品 第4図-108、図面12-107・109～111。107

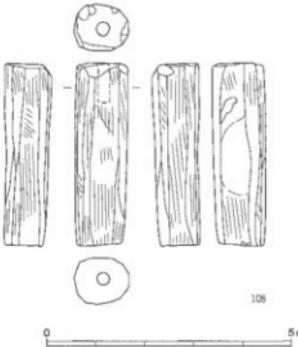
は石棒で上下端を欠損する。凝灰岩製で、残存長8.1cm、最大幅3.0cm、最大厚4.3cm、重量252.0gを測る。

出土遺構はSD01である。108は管玉未製品で孔は未貫通である。緑色凝灰岩製で、全長3.8cm、直径1.1cm、孔径0.2cm、重量6.9cmを測る。出土層位は表土である。

109は方形の行火である。凝灰岩製で、内面は丸壓痕があり被熱する。最大高10.2cm、最大幅8.5cm、最大厚4.3cm、壁厚3.2cm、重量356.3gを測る。出土遺構はSD01である。

110は砾石で下端は欠損する。砂岩製で残存長12.1cm、最大幅10.1cm、最大厚6.7cm、重量1234.9gを測る。出土層位は表土である。111は石臼である。出土層位は表土である。

（岡田一広）



第5図 管玉未製品（実大）

No	出土位置	種別	器種	寸法(cm)			胎土	焼成	色調	焼成率	備考	
				口径	高さ	底径						
1	S D01	陶土器	甕	-	(3.9)	8.5	唐 良	にぶい黄褐色	透12.0/12	小板式。		
2	包含層	陶土器	甕	-	(5.4)	8.0	唐 良	にぶい黄褐色	透 3.0/12	小板式。		
3	S D03	陶土器	甕	-	(3.7)	8.0	唐 良	にぶい黄褐色	透 1.0/12	小板式。		
4	S D04	陶土器	高所	-	(6.6)	-	密 良	にぶい黄褐色	-	白江式。		
5	表土	陶土器	盆	17.0	(1.5)	-	唐 良	にぶい黄褐色	口 0.2/12	白江式。裏面縦2条。内外面赤色。		
6	S D03	陶土器	鉢	-	(2.9)	7.5	唐 良	浅黃褐色	透12.0/12	白江式。台部。		
7	S D03	陶土器	甕	31.5	(2.9)	-	密 良	にぶい黄褐色	口 0.1/12	白江式。裏面縦5条。		
8	表土	土器	瓶	12.0	(2.6)	-	唐 やや良	褐色	口 1.0/12	口縁部。		
9	S D03	土器	甕	23.0	(3.6)	-	唐 良	灰黃褐色	口 0.8/12	口縁部。外縁部付着。		
10	S D03	土器	甕	22.0	(12.4)	-	密 良	にぶい黄褐色	口 1.1/12	口縁部・腹上部。腹上部外縁はカキメ。		
11	S D03	土器	甕	-	(3.7)	7.6	唐 良	浅黃褐色	透 9.0/12	底部。底面は回転糸切り。		
12	S D03	土器	甕	-	(2.4)	6.0	唐 良	褐色	透12.0/12	底面は静止糸切り。		
13	表土	須恵器	杯H	14.0	3.2	7.9	密 良	灰色	口 0.1/12	底面はクロロナダーナダ。		
14	S D03	須恵器	杯A	12.4	3.8	9.3	唐 やや良	灰色	口 5.0/12	底面は回転ヘラ切り。		
15	S D03	須恵器	杯A	12.2	3.5	8.2	唐 良	灰色	口 2.4/12	底面は回転ヘラ切り。		
16	S D03	須恵器	杯A	12.0	3.7	6.0	密 良	灰色	口 2.0/12	底面は回転ヘラ切り。		
17	S D03	須恵器	杯A	12.0	2.9	5.8	密 良	青灰色	口 5.5/12	底面は回転ヘラ切り。		
18	S D03	須恵器	杯A	12.0	3.7	6.5	密 良	灰色	口 2.7/12	底面は回転ヘラ切り。		
19	S D01	須恵器	杯A	11.8	3.4	8.7	密 良	褐色	口 1.5/12	底面は回転ヘラ切り。		
20	表土	須恵器	杯A	11.6	3.5	8.4	唐 やや良	にぶい黄褐色	口 2.2/12	底面は回転ヘラ切り。		
21	S D03	須恵器	杯A	11.6	3.6	8.9	唐 良	明灰褐色	口 4.5/12	底面は回転ヘラ切り。		
22	S D03	須恵器	杯A	11.4	3.4	7.7	唐 良	灰黃褐色	口 8.1/12	底面は回転ヘラ切り。		
23	S D03	須恵器	杯A	10.8	3.8	6.5	密 良	やや良	明るい縦2本筋	口 8.9/12	底面は回転ヘラ切り。	
24	S D03	須恵器	杯A	10.8	3.4	7.2	密 良	青褐色	口 4.0/12	底面は回転ヘラ切り。		
25	S D03	須恵器	杯A	-	(1.4)	7.2	唐 良	灰色	透12.0/12	底部。器表「津子」。底面は回転ヘラ切り。		
26	S D03	須恵器	杯A	-	(1.2)	6.2	密 良	オーバーブル	透12.0/12	底部。底面は回転糸切り。		
27	S D03	須恵器	杯A	-	(3.2)	5.4	唐 良	灰色	透12.0/12	底部。底面は回転糸切り。		
28	地山直上	須恵器	杯A	-	(2.1)	5.2	唐 良	灰色	透 5.0/12	底部。底面は回転糸切り。		
29	S D03	須恵器	杯B	16.6	6.3	10.2	唐 良	灰白色	口 0.1/12	底面は回転ヘラ切り。		
30	S D03	須恵器	杯B	15.2	4.2	9.9	唐 良	綠褐色	口 0.1/12	底面は回転ヘラ切り。		
31	S D03	須恵器	杯B	15.0	5.8	7.2	唐 良	灰色	口 1.2/12	底面は回転ヘラ切り。		
32	S D01	須恵器	杯B	15.0	3.8	11.0	密 良	綠褐色	口 0.6/12	底面は回転ヘラ切り。		
33	S D03	須恵器	杯B	14.8	(5.6)	-	密 良	暗灰褐色	口 4.0/12	口縁部。		
34	S D03	須恵器	杯B	14.0	4.5	8.8	唐 良	褐色	口 1.0/12	底面は回転ヘラ切り。側面にヘラ記号「×」。		
35	S D03	須恵器	杯B	12.0	4.1	7.1	唐 良	青褐色	口 3.0/12	底面は回転ヘラ切り。		
36	S D01	須恵器	杯B	12.0	4.1	8.7	唐 良	暗青褐色	口 1.4/12	底面は回転ヘラ切り。側面にヘラ記号「×」。		
37	S D03	須恵器	杯B	11.2	3.8	7.4	密 良	灰色	口 5.0/12	底面は回転ヘラ切り。		
38	S D03	須恵器	杯B	10.6	3.8	6.6	唐 良	青褐色	口 3.0/12	底面は回転ヘラ切り。		
39	地山直上	須恵器	杯B	-	(3.8)	6.2	密 良	灰色	透12.0/12	底面は回転糸切り。高台はナゲ出目。		
40	地山直上	須恵器	杯A	16.0	(2.5)	-	密 良	綠褐色	口 0.1/12	つまみ欠損。天井部外縁は一部ケズリ。		
41	S D04	須恵器	杯A	15.2	(1.9)	-	唐 良	褐色	口 0.9/12	つまみ欠損。		
42	S D01	須恵器	杯A	14.0	(1.8)	-	唐 良	褐色	口 0.9/12	つまみ欠損。		
43	S D01	須恵器	杯A	14.0	(2.1)	-	密 良	灰色	口 0.8/12	つまみ欠損。		
44	地山直上	須恵器	杯A	12.2	(2.4)	-	密 良	暗青褐色	口 1.1/12	つまみ欠損。天井部外縁は折転糸切り～ケズリ。		
45	S D03	須恵器	杯A	12.0	(1.8)	-	密 良	綠褐色	口 7.8/12	つまみ欠損。天井部外縁は一部ケズリ。		
46	S D01	須恵器	杯A	12.0	(2.3)	-	密 良	灰色	口 1.2/12	つまみ欠損。天井部外縁は一部ケズリ。		
47	S D01	須恵器	杯A	11.6	(2.7)	-	密 良	綠褐色	口 1.8/12	つまみ欠損。天井部外縁は一部ケズリ。		
48	S D03	須恵器	杯A	11.5	3.5	-	唐 良	青褐色	口 0.5/12	つまみは宝珠系。天井部外縁は一部ケズリ。		
49	S D01	須恵器	杯A	11.2	(2.2)	-	唐 良	暗青褐色	口 2.5/12	つまみ欠損。		
50	S D03	須恵器	杯A	11.0	(1.1)	-	唐 良	褐色	口 1.0/12	つまみ欠損。		
51	表土	須恵器	甕	19.2	(4.8)	-	唐 良	綠褐色	口 0.8/12	口縁部。外縁はハケメ後クロロナダ。		

第1表 土器類観察表 [1]

No.	出土位置	種別	器種	法量(cm)			地土	焼成	色調	焼存率	備考
				口径	高さ	底径					
52	S D01	灰陶器	長縦瓶	6.0	(4.5)	—	寄	良	緑灰色	口 1.0/12	口縁部。
53	S D03	灰陶器	瓶類	—	(10.9)	—	寄	良	オリーブ黄色	—	底上部。
54	S D01	灰陶器	瓶類	—	(4.3)	9.0	寄	良	灰色	底 4.0/12	底部。底面はナデ。
55	S D03	灰陶土器	壺鉢	—	(5.1)	—	やや寄	良	橙色	—	縁部。
56	S D03	灰陶土器	壺鉢	—	(1.6)	12.0	やや寄	良	橙色	底 1.8/12	底部。
57	S D03	灰陶土器	壺鉢	—	(2.3)	10.6	寄	良	橙色	底 0.1/12	底部。
58	S D01	陶器	すり鉢	17.0	(6.2)	—	寄	良	青灰色	口 2.0/12	口縁部。
59	S D01	陶器	すり鉢	27.3	(4.1)	—	寄	良	青灰色	口 0.4/12	口縁部。オロシ目幅0.7cmに10条。口縁部に波状文。
60	S D01	陶器	すり鉢	39.0	(7.4)	—	寄	良	青灰色	口 0.5/12	口縁部。オロシ目幅2.0cmに10条。口縁部に波状文。
61	S D01	陶器	すり鉢	—	(8.1)	—	寄	良	緑灰色	—	削形。オロシ目幅3.2cmに12条。
62	地山直上	陶器	すり鉢	—	(3.3)	10.2	寄	やや良	灰白色	底 1.0/12	底部。底面はナデ。オロシ目幅1.1cmに11条。
63	S D02	陶器	すり鉢	—	(4.1)	8.0	寄	良	暗緑灰色	底 5.0/12	底部。底面は鋸歯条切り。
64	灰土	陶器	壺	20.6	(5.0)	—	寄	良	青灰色	口 0.8/12	口縁部・裏部。
65	灰土	陶器	壺	21.0	(3.8)	—	寄	良	灰色	口 1.1/12	口縁部。
66	S D11	陶器	壺	19.2	(3.7)	—	寄	良	青灰色	口 0.9/12	口縁部。
67	灰土	陶器	壺	—	(5.5)	19.8	寄	良	青灰色	底 1.4/12	底部。
68	S D01	陶器	壺	—	(7.7)	—	寄	良	暗青灰色	—	口縁部。
69	S E01	陶器	壺	—	(6.9)	—	寄	良	緑灰色	—	口縁部。
70	S K03	陶器	壺	—	(6.3)	21.2	寄	良	青灰色	底 1.8/12	底部。底面はナデ+切れ砂。
71	S D01	瓦窓	壺	—	(6.3)	—	寄	良	灰白色	—	削形。外面上に自然釉付。
72	S E02	瓦窓	すり鉢	38.6	(9.9)	—	寄	良	にい黄褐色	口 2.3/12	口縁部。オロシ目幅3.0cmに10条。
73	S S02	瓦窓	壺	—	(7.7)	—	寄	良	暗褐色	—	削形→頭上部。
74	S D01	瓦質土器	火鉢	—	(4.8)	—	寄	良	褐灰色	—	外面上に印刷文。
75	S D01	粗手美濃器	壺	—	(1.3)	5.3	寄	良	明緑灰色	底 12.0/12	内面は丸ノミでソギ、凹みに円錐形。見込みは墨印花文。
76	灰土	白磁	碗	—	(2.7)	4.0	寄	良	灰白色	底 5.0/12	底部。表面に出し窓台。見込みは底の目和斜ぎ。高台は露胎。
77	S E02	天日茶碗	碗	10.8	(5.5)	—	寄	良	黒色	口 1.2/12	中堅型。底部外周は健胎。他は鉄錆施釉。
78	灰土	青磁	碗	15.0	(3.6)	—	寄	良	灰白色	口 0.1/12	鐵錆斑。外面上に墨葉文。
79	S D01	青磁	碗	—	(2.0)	5.6	寄	良	灰色	底 0.1/12	底部。削り出し窓台。見込みに花文。窓台内部は露胎。
80	S D01	青磁	碗	—	(2.6)	5.6	寄	良	灰	底 5.5/12	底部。削り出し窓台。窓台内面は露胎。
81	地山直上	青磁	碗	—	(4.0)	5.0	寄	良	オリーブ灰色	底 4.0/12	削形。削り出し窓台。窓台内側は露胎。
82	灰土	青磁	盤	—	(3.1)	13.0	寄	良	オリーブ灰色	底 1.8/12	底部。削り出し窓台。窓台内側は露胎。
83	S D01	青磁	盤	—	(2.7)	12.0	寄	良	オリーブ灰色	底 1.0/12	削形。削り出し窓台。窓台内側は露胎。
84	灰土	越中瀬戸	壺	14.0	3.2	5.2	寄	良	橙色	口 0.7/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・高台は露胎。
85	S D01	越中瀬戸	壺	11.1	2.5	3.7	寄	良	赤褐色	口 2.5/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・高台は露胎。
86	S D01	越中瀬戸	壺	11.0	2.5	3.8	寄	良	明緑褐色	口 3.0/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・高台は露胎。
87	S D01	越中瀬戸	壺	11.0	2.5	4.6	寄	良	にい黄褐色	口 2.0/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・高台は露胎。
88	S D01	越中瀬戸	壺	10.0	2.1	3.8	寄	良	灰錆褐色	口 0.2/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・高台は露胎。
89	S D11	越中瀬戸	壺	—	(2.8)	5.2	寄	良	にい黄褐色	底 6.0/12	削り出し窓台。内面および口縁部外周に灰錆施釉。
90	S D01	越中瀬戸	壺	—	(2.2)	4.2	寄	良	灰錆褐色	底 6.0/12	削り出し窓台。内外周の一部に鉄錆施釉。底部との接合部。
91	S D01	越中瀬戸	煎茶器	11.0	2.9	6.0	寄	良	灰錆褐色	口 4.0/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・窓台は露胎。
92	S D01	越中瀬戸	煎茶器	10.0	3.2	4.8	寄	良	にい黄褐色	口 12.0/12	削り出し窓台。底付に難れ物。内外面に透明釉施釉。鉄錆施釉。窓台は露胎。
93	S D02	越中瀬戸	煎茶器	—	(2.4)	5.2	寄	良	灰白色	底 6.0/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・窓台は露胎。
94	S D01	越中瀬戸	涙瓶	15.4	(4.6)	—	寄	良	灰白色	口 2.0/12	口縁部内外面に鉄錆施釉。
95	灰土	越中瀬戸	青炉	8.8	(4.3)	—	寄	良	にい黄褐色	口 2.2/12	外周および口縁部内面に灰錆施釉。
96	S D01	越中瀬戸	青炉	—	(1.8)	6.0	寄	良	にい黄褐色	底 6.0/12	底面凹凸切り。
97	S D11	窓戸美濃	瓶	—	(3.0)	4.2	寄	良	明緑灰色	底 11.0/12	削り出し窓台。墨付に難れ物。内外面に透明釉施釉。
98	S D01	窓戸美濃	瓶	11.0	2.4	5.4	寄	良	オロリーブ色	口 0.5/12	削り出し窓台。口縁部に灰錆施釉。見込み・窓台は露胎。
99	S D01	肥窓	瓶	9.7	3.2	2.8	寄	良	灰色	口 3.0/12	削り出し窓台。口縁部に透明釉施釉。窓台は露胎。
100	地山直上	肥窓	瓶	14.6	(2.2)	—	寄	良	緑灰色・灰白色	口 1.2/12	内野山窓。内面銀練釉。外頂長石施釉。
101	灰土	肥窓	瓶	—	(2.6)	5.6	寄	良	オロリーブ色	底 3.1/12	内野山窓。絶の目窓台。内面灰釉。外側透明釉施釉。
102	S E02	伊万里	瓶	10.0	(6.0)	—	寄	良	灰白色	口 2.0/12	外側銀練釉文。内外面透明釉施釉。
103	S D02	伊万里	瓶	—	(2.4)	7.8	寄	良	灰白色	底 2.0/12	内面銀練釉。内外面透明釉施釉。

第2表 土器類観察表 [2]

## 第4節 竹内遺跡における中世井戸出土の種実遺体群

### 資料と分析方法

試料は室町時代の井戸から検出された種実遺体群である。井戸（S E 02）内の堆積物を、オープニング約1.0mmメッシュの篩で水洗選別によって得られた種実遺体で、水濁けの状態で保管されていた。水洗選別までを現場担当者が行い、筆者は同定作業以降を行った。試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡下で観察し、同定は科、属、種の階級で、主に現生標本との対比を行った。

### 同定結果と分類群の特徴

同定の結果、木本が2分類群、草本が17分類群の合計19分類群が同定された。このうち栽培植物は7分類群である。同定結果を第3表にまとめ、同定の根拠となった形態的特徴を第4表に、また主要な分類群については写真をそれぞれ示した。計数については、部位のみ表記は完形もしくは概ね2/3以上が残存している個体を示し、部位の後に「半分」と表記されている個体は概ね1/3～2/3程度の残存の個体を、「破片」としている個体は1/3以下のものをそれぞれ示している。

種実遺体群で最も多く検出されたのは草本のタデ属Aとイネがある。次に多いのがタデ属Bやマメ類A・Bである。この5分類群で検出された種実遺体群の大半を占めている。他に、木本ではサンショウやキハダが、草本ではエノコログサ属、ホタルイ属、ヒユ属、エノキグサがそれぞれ検出されている。栽培植物ではアサ、ソバ属、ゴマ、ウリ類がある。

検出された分類群のうち木本については、どちらも落葉広葉樹である。キハダは夏緑広葉樹林の主要構成要素になるが、日当たりの良い開地や伐採地、人里などの人為的な影響下で成立する二次林を構成することもある。サンショウは二次林の要素が強い分類群である。草本については大きく水湿地性植物と陸性植物とに分けることができる。水湿地性植物ではホタルイ属の1分類群があり、比較的水深の浅い水田や池の畔などに生育する。陸性植物でエノコログサ属、ヒユ属、エノキグサの3分類群があり、日当たりの良い、やや乾燥している場所に生育する。栽培植物としては、イネ、アサ、ソバ属、マメ類A・B、ゴマ、ウリ類の7分類群があり、種数において全体の約35%、個体数において約45%を占めている<sup>31</sup>。イネやマメ類、ソバ属の一部は著しく被熟しており、イネの炭化果実については焼き彫れや焼き太りの個体が多い。これらの栽培植物の中で、ゴマを除く分類群はいずれも中世の遺跡からは普通にみられる分類群である。

### 所見

種数個数ともに木本が少ないとから、堆積地周辺には森林ではなく、日当たりの良い開地であったと考えられる。木本はあっても孤立木程度に分布しており、草本が卓越していたと考えられる。草本では比較的乾燥に強い陸性植物が種数個数共に多いことから、堆積地周辺にはこれらの陸性植物が分布していたと考えられる。その一方で水湿地性植物であるホタルイ属が認められることから、堆積地もしくは周辺にはホタルイ属が生育可能な溝などの水湿地の存在が推定される。

栽培植物には、イネ、アサ、ソバ属、マメ類A・B、ゴマ、ウリ類といった多様な分類群が検出されている。イネやマメ類、ソバ属については炭化しており、これらの栽培植物が遺跡内で広く利用されていたと考えられる。また、被熟していることから、これらの分類群はS E 02周辺に生育していたというよりは、S E 02に人為的に投棄されたか、S E 02周辺から流れ込んだものが堆積した可能性が考えられる。ウリ類については、3個体の粒長が6.5mm～7.5mmであり、6.1～8.0mmのマクワ・シロウリ型に相当する<sup>32</sup>。全国的に中近

世ではマクワ・シロウリ型が主体となる傾向があることから、整合的である。

(島田亮仁)

## 註

- (1) 百分率を示すにあたり、便宜的に破片3を1個体として算出している。
- (2) 藤下典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間—その種類、渡来、伝播、利用について—」『考古学ジャーナルNo354』 ニュー・サイエンス社

## 引用・参考文献

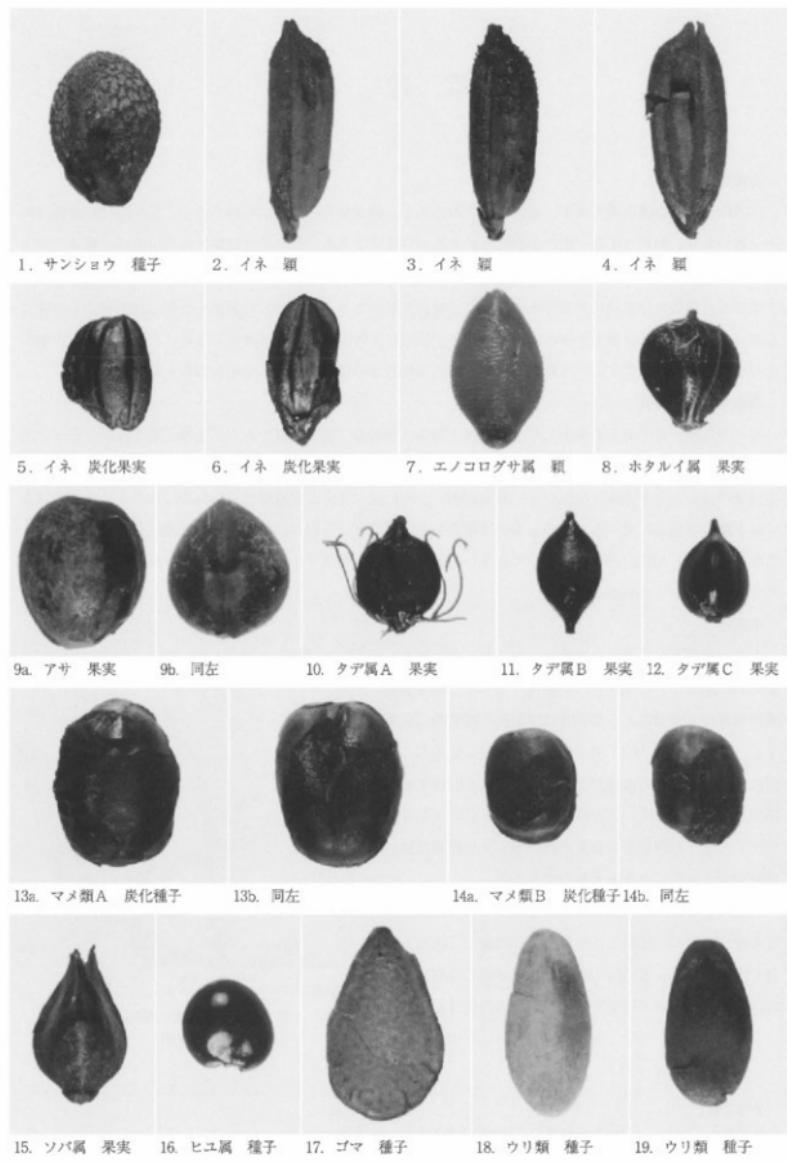
- 粉川昭平・吉井亮一 1984 「江上遺跡群出土の種実遺体」「北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・総括編－」上市町教育委員会  
中村 亮仁 2003 「富山県における植物利用－栽培植物の導入期と変革期－」『統文化財学論集』 文化財学論集刊行会

分類群 (和名 / 学名)	部 仮	竹内遺跡 SE 02	
		種子	種子破片
木本	<i>arbor</i>	3	1
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i> DC.	1	1
セハダツ	<i>Phellodendron amurense</i> Ruprecht	1	1
草本	<i>herb</i>	3	13
イネ	<i>Oryza sativa</i> Linn.	5	42
ノコログサ属	<i>Setaria</i>	4	6
イネ科	<i>Gramineae</i>	4	4
カヤツリグサ属	<i>Cyperus</i>	1	3
カタルイ属	<i>Scirpus</i>	3	3
アサ	<i>Cannabis sativa</i> Linn.	8	8
タデ属A	<i>Polygonum</i> A	37	53
タデ属B	<i>Polygonum</i> B	13	2
タデ属C	<i>Polygonum</i> C	2	2
タデ属D	<i>Polygonum</i> D	1	5
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	9	1
ヒユ属	<i>Amaranthus</i>	1	1
マメ類A	<i>Leguminosae</i> A	2	10
マメ類B	<i>Leguminosae</i> B	1	1
エノキダケ	<i>Acalypha australis</i> Linn.	1	1
ゴマ	<i>Sesame indicum</i> Linn.	1	2
タリ類	<i>Cucurbita melo</i> Linn.	1	1
合計	Total	263	

第3表 種実同定結果一覧

木本 <i>arbor</i>	サシガメ <i>Zanthoxylum piperitum</i> DC. 種子：種子は黒色で、側扁形で卵形を呈する。表面には微細な網状の細いハシゴがある。表面には微細な網状の細いハシゴがある。長さ3.8~4.2mm、幅2.0~3.2mmである。
セハダツ <i>Phellodendron amurense</i> Ruprecht	種子：種子は黒色で、表面には微細な網状の細いハシゴがある。
草本 <i>herb</i>	
イネ科 <i>Gramineae</i>	イネ科は黒色で、側扁形で卵形を呈する。表面には微細な網状の細いハシゴがある。表面には微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.4~2.6mm、幅1.5~1.6mmである。
カヤツリグサ属 <i>Cyperus</i>	単葉：葉裏は黒褐色で、無葉形を呈する。断面は三角形を呈する。長さ2.2~3mm、幅1.5~1.6mmである。
カタルイ属 <i>Scirpus</i>	単葉：葉裏は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は四角形で、表面には微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.0~2.1mm、幅1.5~1.6mmである。
アサ <i>Cannabis sativa</i> Linn.	葉裏は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.4~2.6mm、幅1.5~1.6mmである。
タデ属A <i>Polygonum</i> A	タデ属Aは黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.4~2.6mm、幅1.5~1.6mmである。
タデ属B <i>Polygonum</i> B	タデ属Bは黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.0~2.1mm、幅1.5~1.6mmである。
タデ属C <i>Polygonum</i> C	タデ属Cは黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.0~2.1mm、幅1.5~1.6mmである。
タデ属D <i>Polygonum</i> D	タデ属Dは黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.0~2.1mm、幅1.5~1.6mmである。
ソバ属 <i>Fagopyrum</i>	ソバ属は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.4~2.6mm、幅1.5~1.6mmである。
ヒユ属 <i>Amaranthus</i>	ヒユ属は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.2~3mm、幅1.5~1.6mmである。
マメ類A <i>Leguminosae</i> A	マメ類Aは黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.5~3.3mm、幅1.5~1.6mmである。
マメ類B <i>Leguminosae</i> B	マメ類Bは黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.0~2.1mm、幅1.5~1.6mmである。
エノキダケ <i>Acalypha australis</i> Linn.	葉裏は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.4~2.6mm、幅1.5~1.6mmである。
ゴマ <i>Sesame indicum</i> Linn.	葉裏は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.2~2.3mm、幅1.5~1.6mmである。
タリ類 <i>Cucurbita melo</i> Linn.	葉裏は黒褐色で、側扁卵形を呈する。断面は側方に微細な網状の細いハシゴがある。長さ2.7~2.8mm、幅1.7~1.8mmである。
合計	263

第4表 分類群の記載



第6図 竹内遺跡出土の種実遺体群

### 第3章 総括

#### 古墳時代以前

古墳時代以前は遺構検出せず、遺物出土のみである。縄文時代の遺物は石棒がある。弥生時代の遺物は弥生土器があり、時期は中期中葉の小松式と終末期の白江式である。弥生時代以降は白岩川流域で集落が営まれる。これは白岩川の後背湿地を利用した水田耕作と、水運を利用した交通要所であったからと推定できる。古墳時代の遺物は緑色凝灰岩製管玉未製品と須恵器杯Hがある。緑色凝灰岩製管玉未製品は形状から中期のものに位置付けでき、表土からの出土ではあるが周辺に玉作人がいたと推定できる。なお、稚子塚古墳出土の管玉と形状は酷似する（三鍋他1995）。須恵器杯Hは6世紀末から7世紀初頭のものである。

#### 奈良から平安時代

古代の遺構として溝1条検出した。遺物は土師器、須恵器、製塙土器である。墨書き土器「淨子」が1点出土しており人名と推定できる。図化できる資料は少なかったが製塙土器は一定量出土した。藤田富士夫氏は当村域のはとんどを大蔵荘に比定し（藤田1998）、その説に従うと北西隅に近い位置にある。今回の調査では大蔵荘の比定に関する直接的なものは出土していないが、特に8世紀後半から9世紀初頭にかけての土器群を主体とし10世紀代まで出土しており、莊園の設置から衰退する時期にあたる。今後の周辺の調査を含めて検討していく必要があろう。

#### 中近世

中世の遺構として井戸2基検出した。井戸から出土した珠洲や越前は15世紀後半に位置付けできる。圃場整備前の地籍図と重ねると、S E 01は字名長三郎屋敷に位置する。自然流路S D 02・04は字名長三郎沼に位置しこの屋敷地を囲む堀の可能性がある。また、S E 02は字名堀田であるが区画が広いことから屋敷地の可能性があり、出土した種子の同定から食用植物が多くかつ乾燥に強い植物が含まれることからも推定できよう。

自然流路S D 01の東端部は仏生寺城の主郭と副郭を隔てる南川に繋がっており、S D 01より北側で「屋敷」と付く字名が多く、S D 01の存続が仏生寺城の時期まで遡れば、家臣団屋敷の南側を区画する堀の可能性もある。

（岡田一広）

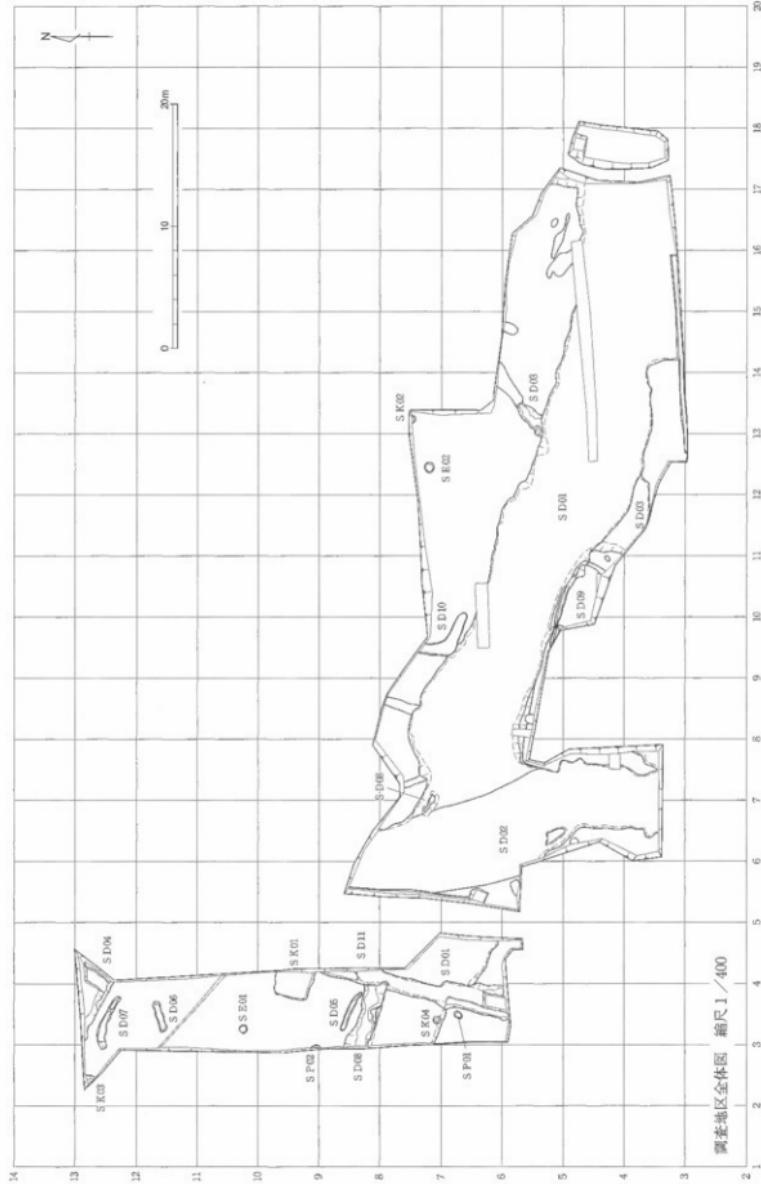


第7図 仏生寺城と周辺の小字名  
(1/5,000)

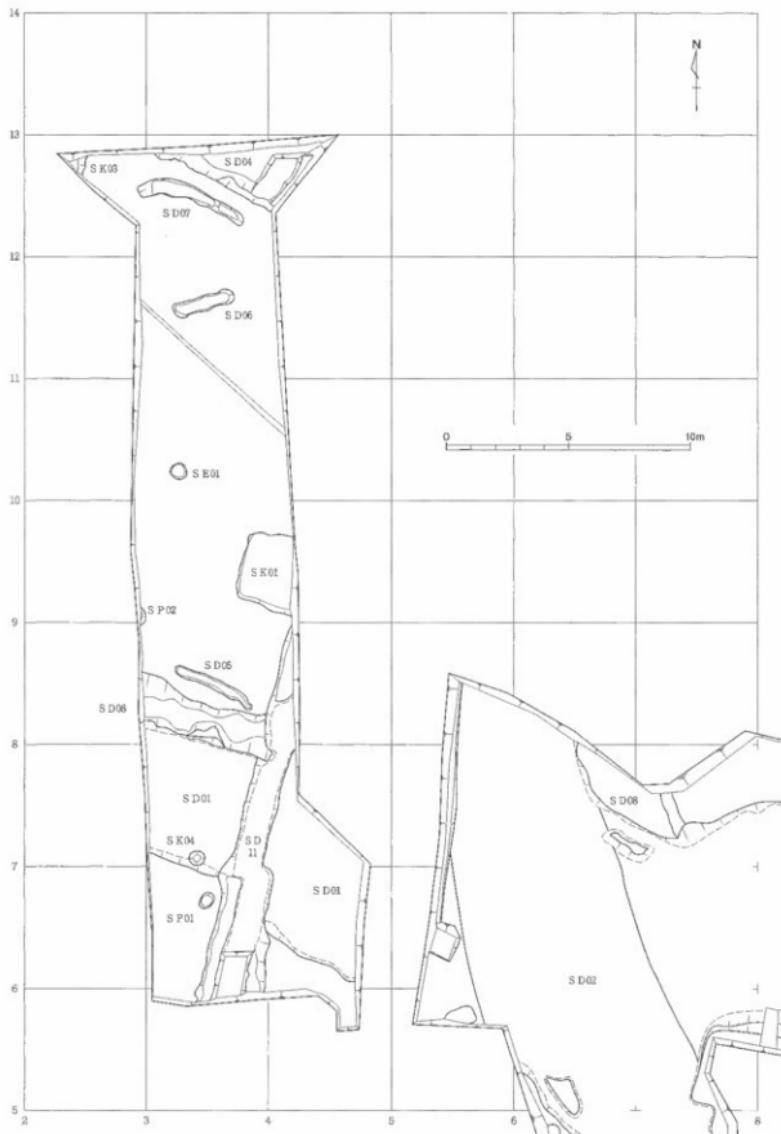
#### 〔参考文献〕

- 高瀬重雄他 1994 「富山県の地名」『日本歴史地名大系』第16巻 平凡社  
高梨清志他 2001 『仏生寺城跡発掘調査報告』 舟橋村教育委員会  
藤田富士夫 1998 「東大寺領大蔵荘の現地比定と遺跡」『森浩一70の疑問 古代探求』 中央公論社  
三鍋秀典他 1995 『稚子塚古墳 - 第2次発掘調査報告-』 立山町教育委員会

四面〇一 遺構実測図



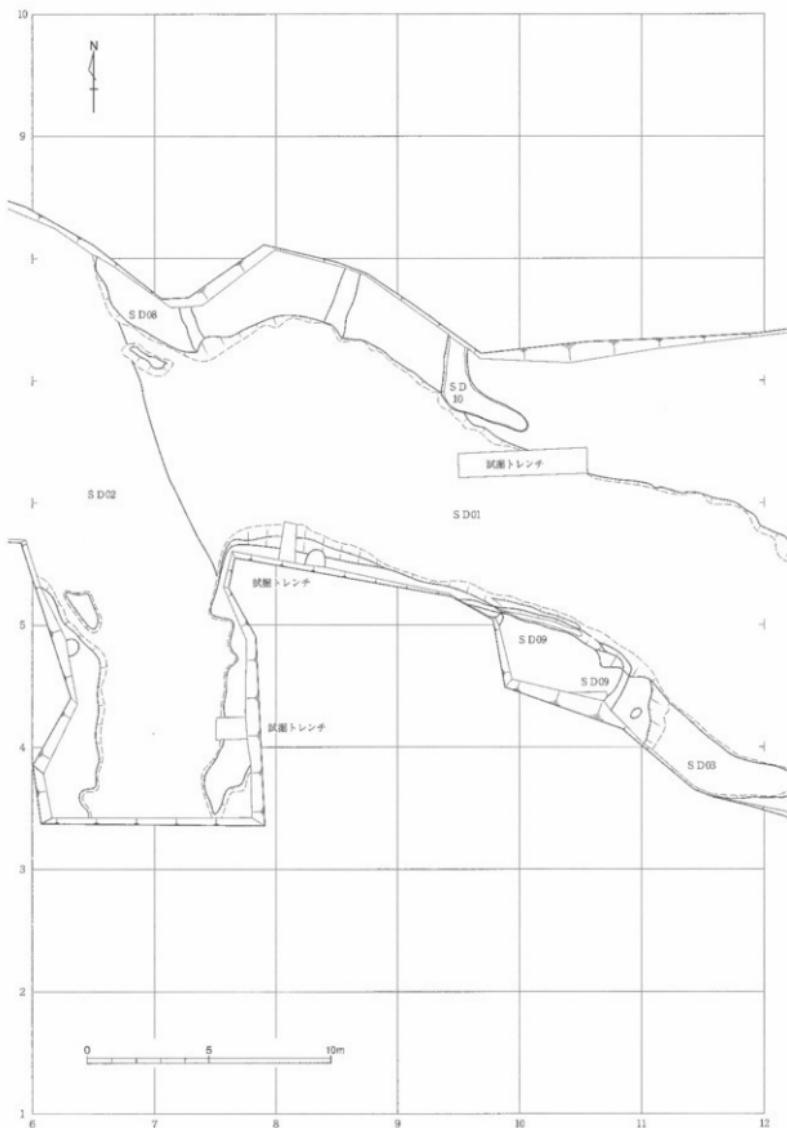
図面〇二  
遺構実測図



遺構平面図〔1〕

縮尺 1/200

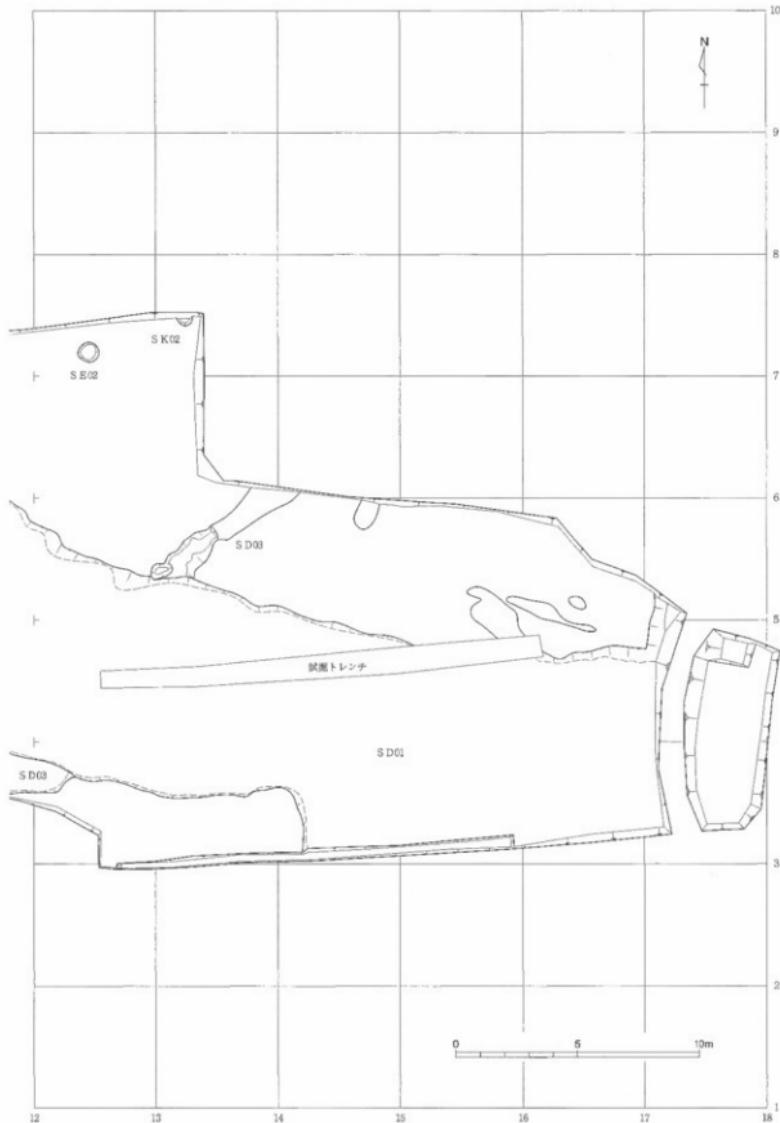
図面〇三 遺構実測図



遺構平面図〔2〕

縮尺 1/200

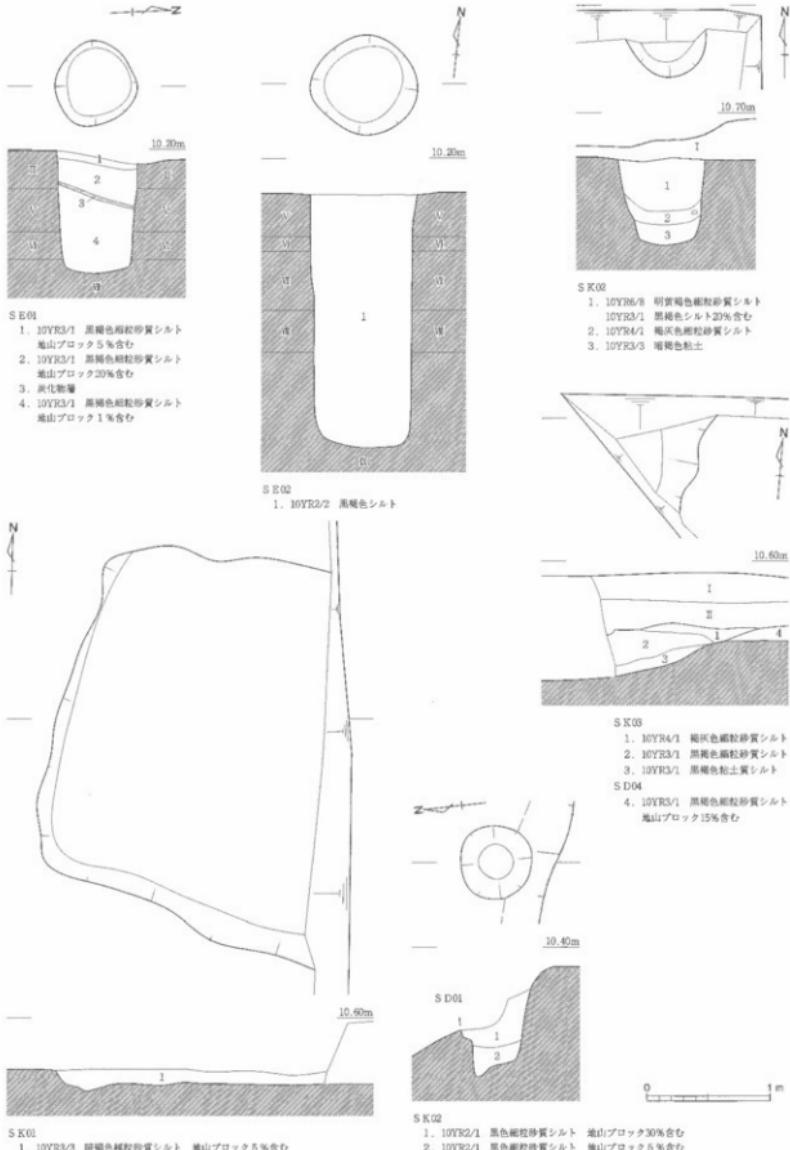
図面〇四  
遺構実測図



遺構平面図〔3〕

縮尺 1/200

図面〇五  
遺構実測図



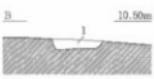
井戸、土坑実測図

縮尺 1/40

図面〇六  
遺構実測図

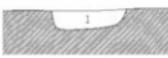


- S D03  
 1. 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト 第Ⅱ層40%含む  
 2. 10YR8/4 浅黄褐色粘土 透莎シルト50%含む  
 3. 10YR8/4 深黄褐色粘土 黒色シルト10%含む



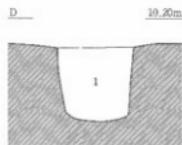
- S D05  
 1. 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト

C 10.20m

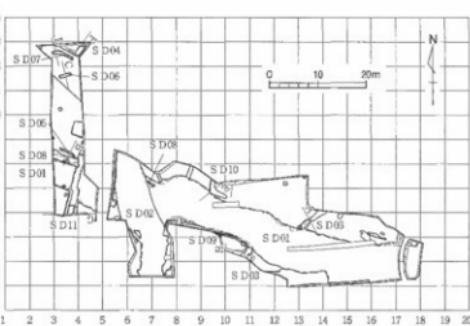


- S D06  
 1. 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト

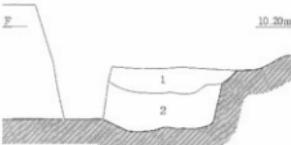
D 10.20m



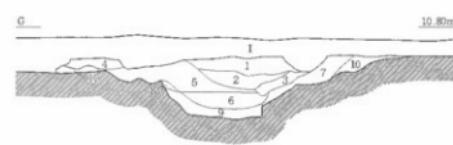
- S D07  
 1. 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト



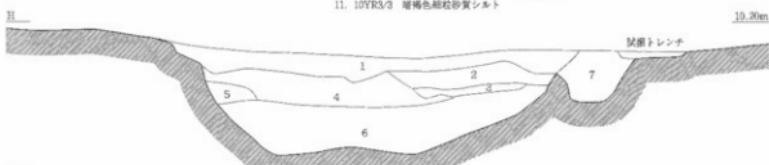
- S D10  
 1. 10YR4/3 に近い黄褐色細粒砂質シルト 地山1%含む  
 2. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山40%含む  
 3. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山5%含む



- S D04  
 1. 10YR4/3 に近い黄褐色細粒砂質シルト 地山1%含む  
 2. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山40%含む  
 3. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山5%含む



- S D11  
 1. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山1%含む  
 2. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山10%含む  
 3. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山3%含む  
 4. 10YR6/8 明黄褐色細粒砂質シルト 透莎シルト40%含む  
 5. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山50%含む  
 6. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山10%含む  
 7. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト  
 8. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山3%含む  
 9. 10YR4/1 喜褐色粘土質シルト  
 10. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト 地山40%含む  
 11. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト



- S D04  
 1. 10YR3/3 喜褐色細粒砂質シルト  
 2. 10YR2/1 喜褐色細粒砂質シルト  
 3. 10YR2/1 喜褐色細粒砂質シルト 明青灰色粘土30%含む  
 4. 10YR4/1 喜褐色細粒砂質シルト オリーブ灰色細縫4%含む  
 5. 10YR4/1 喜褐色細粒砂質シルト オリーブ灰色細縫40%含む  
 6. 10YR3/1 喜褐色細粒砂質シルト 明青灰色粘土3%含む

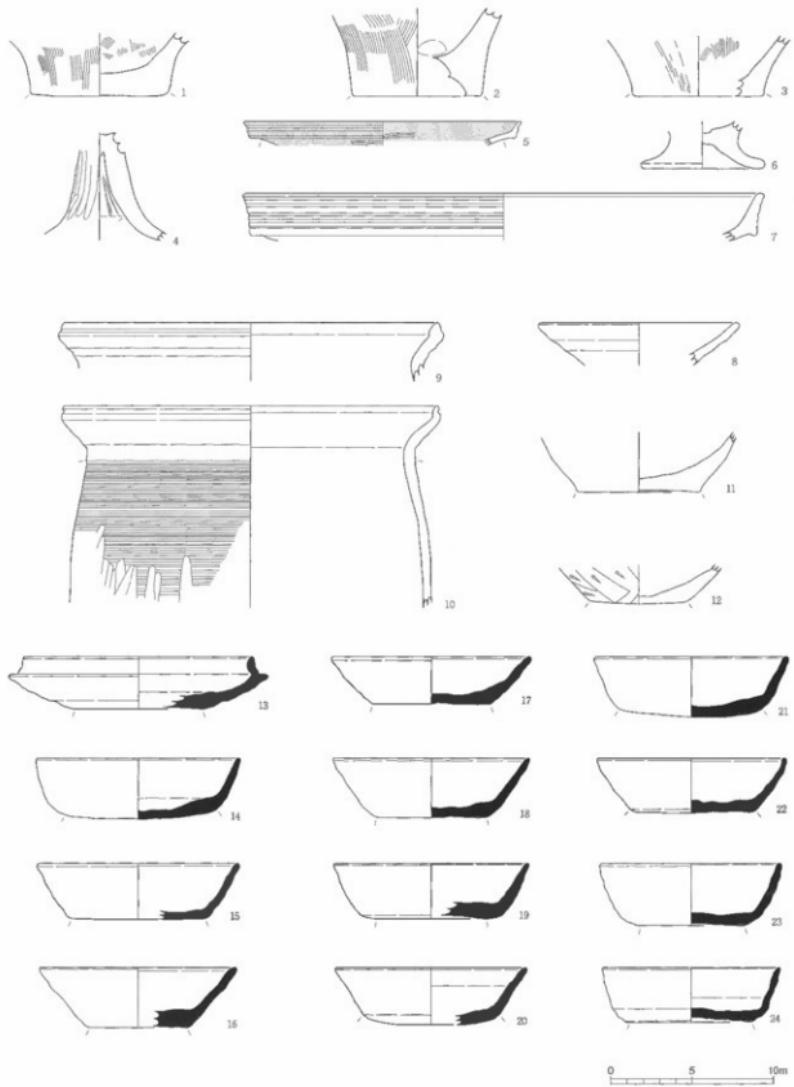
- S D08  
 7. 10YR2/1 喜褐色細粒砂質シルト

0 1 2 m

溝土層断面図

縮尺 1/40・1/60

図面〇七 遺物実測図

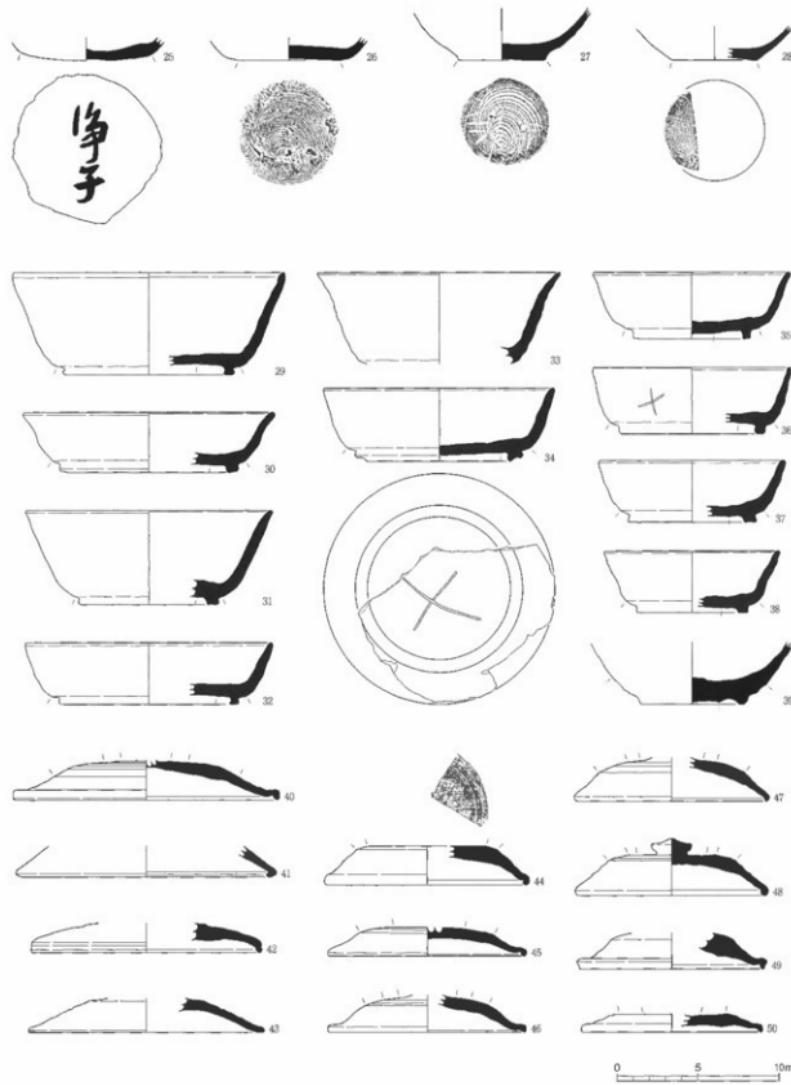


土器類

弥生土器；1～7，土師器；8～12，須恵器；13～24

縮尺1／3

図面〇八  
遺物実測図

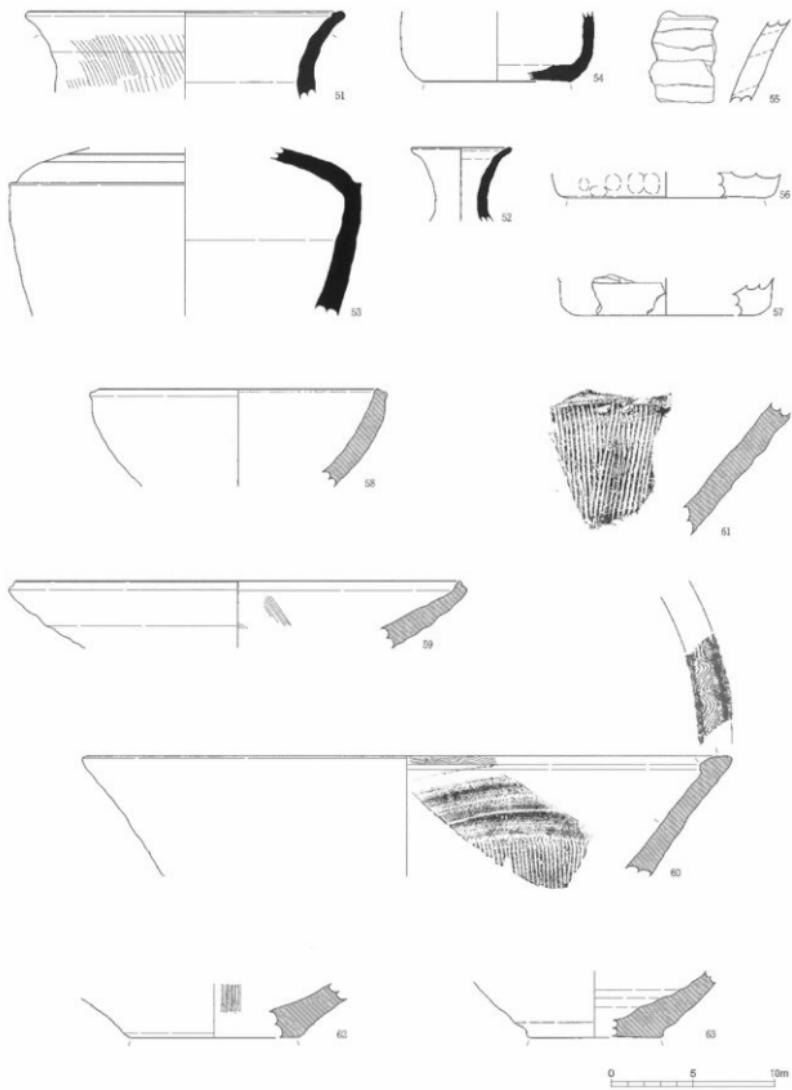


土器類

須恵器：25～50

縮尺1/3

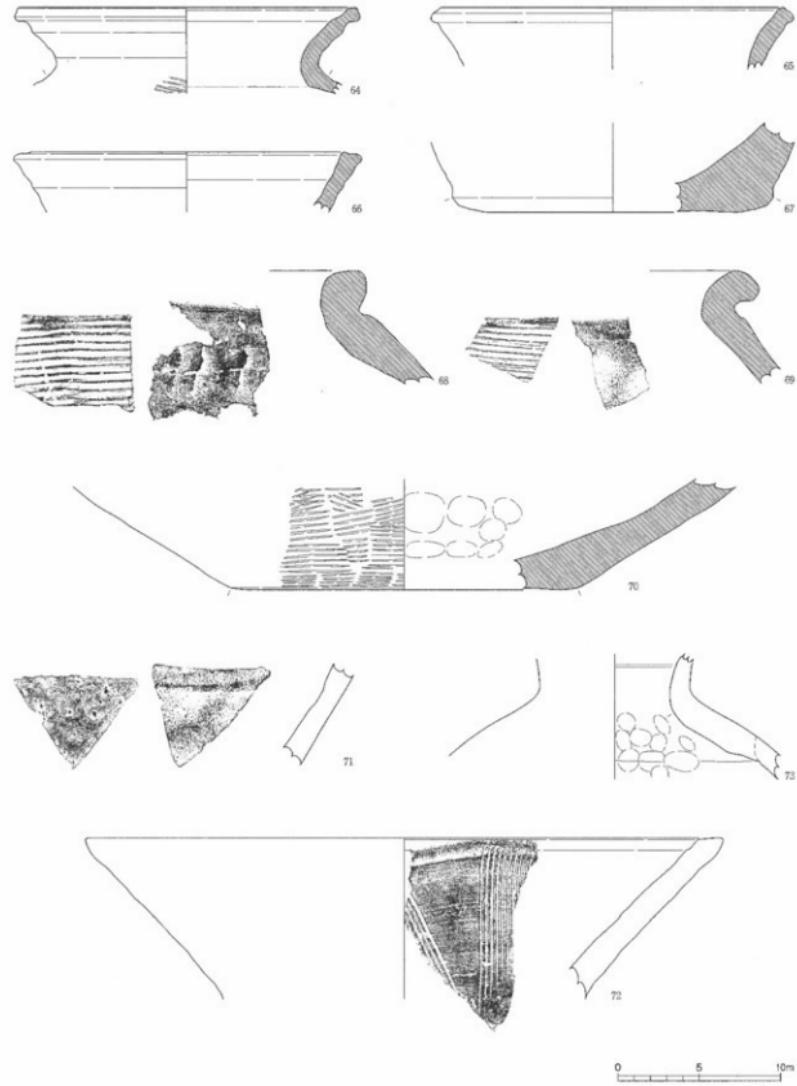
図面〇九 遺物実測図



土器類

須恵器：51～54、製塙土器：55～57、珠洲：58～63

縮尺 1 / 3

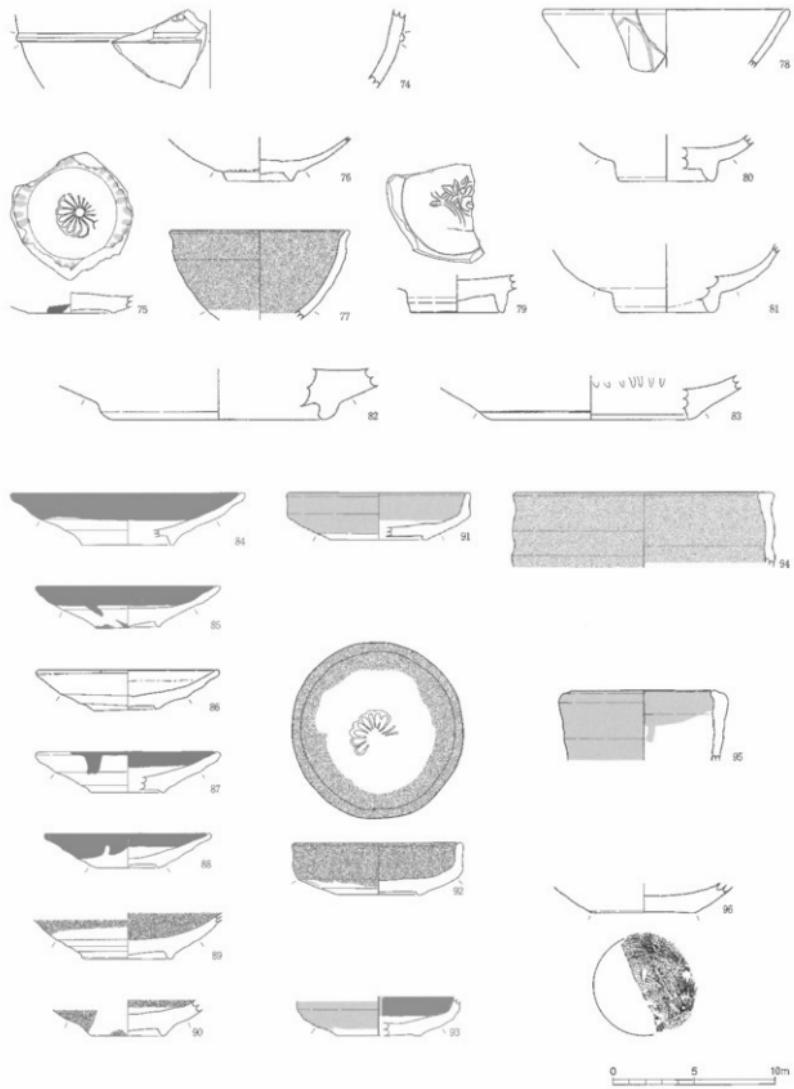


土器類

珠洲: 64~70, 八尾: 71, 越前: 72・73

縮尺 1/3

図面二  
遺物実測図

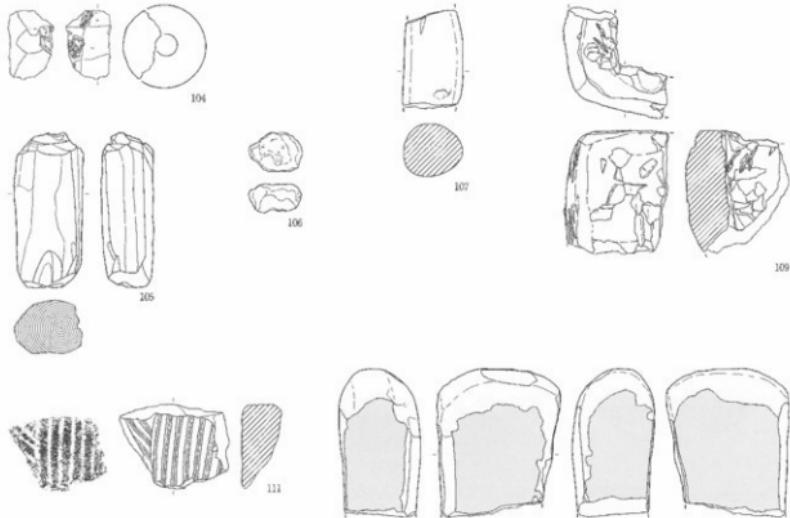
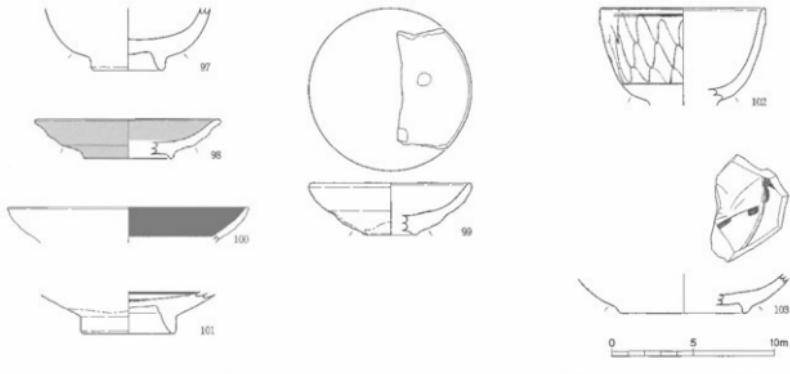


土器類

瓦質土器：74、瀬戸美濃：75、白磁：76、天目茶碗：77、青磁：78～83、越中瀬戸：84～96

縮尺 1/3

図面一二  
遺物実測図



S E02 : 105

S D01 : 106 · 107 · 109

S D04 : 104

表 土 : 110 · 111

土器類・その他の遺物

瀬戸美濃 : 97 · 98, 肥前 : 99 ~ 101, 伊万里 : 102 · 103, 藤の羽口 : 104, 部材 : 105

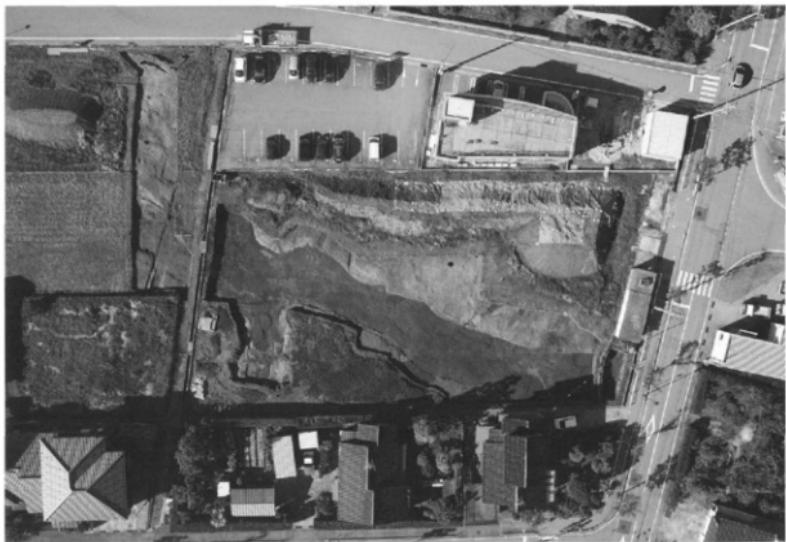
鉄滓 : 106, 石棒 : 107, 行火 : 109, 砥石 : 110, 石臼 : 111

縮尺 1 / 3 · 1 / 4

0 10 20cm



1. 調査地区全景（西）



2. 調査地区全景（上方）



1. 溝 S D03全景（南）



2. 井戸 S E01全景（東）

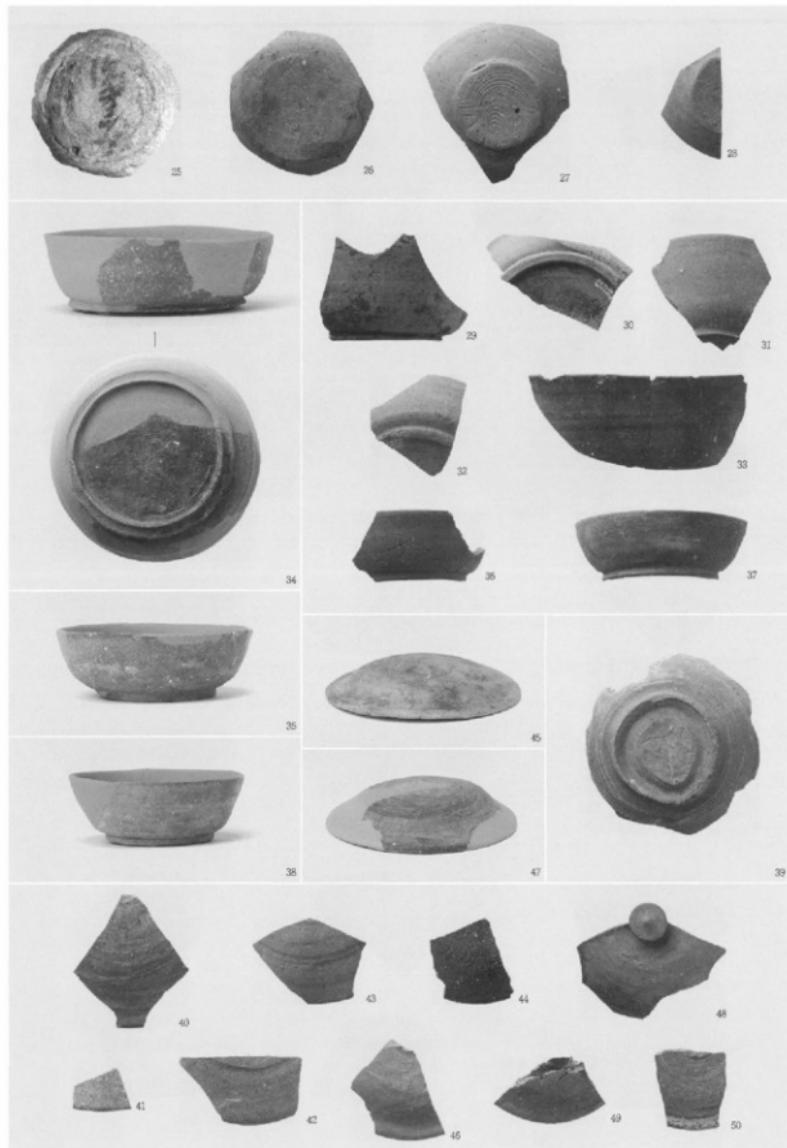


3. 井戸 S E02全景（東）

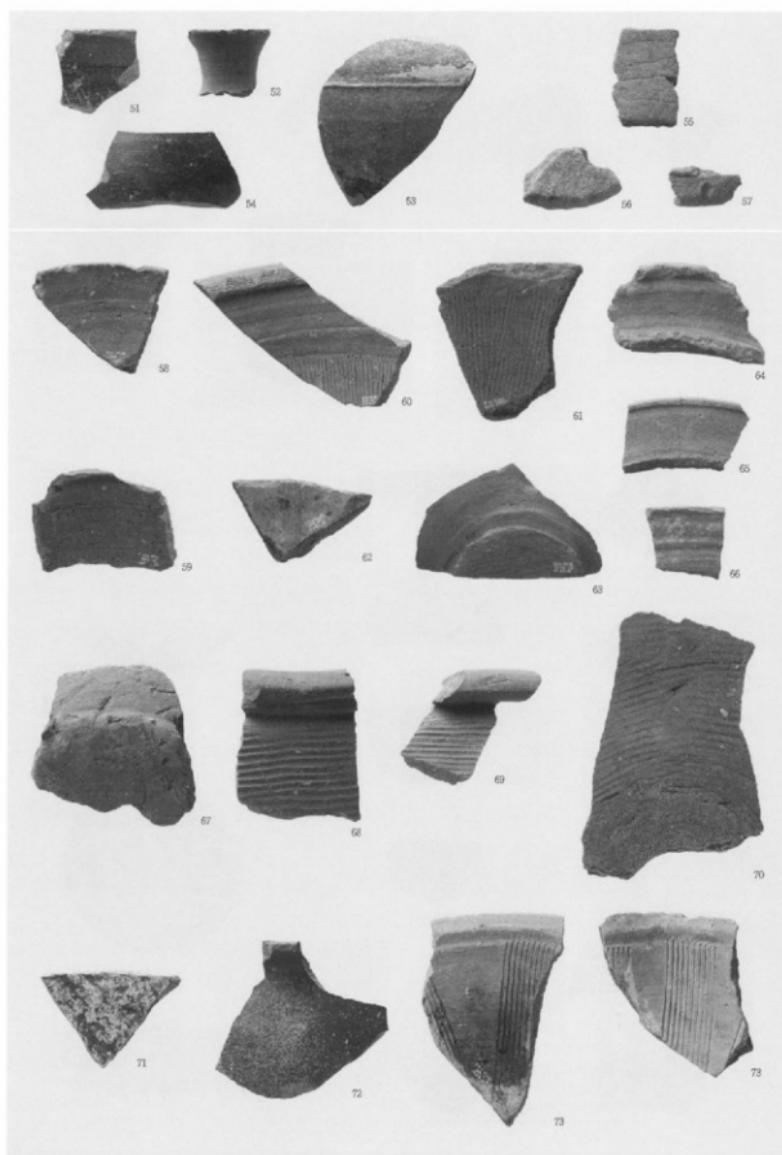


土器類 弥生土器・須恵器

図面〇四 遺物写真

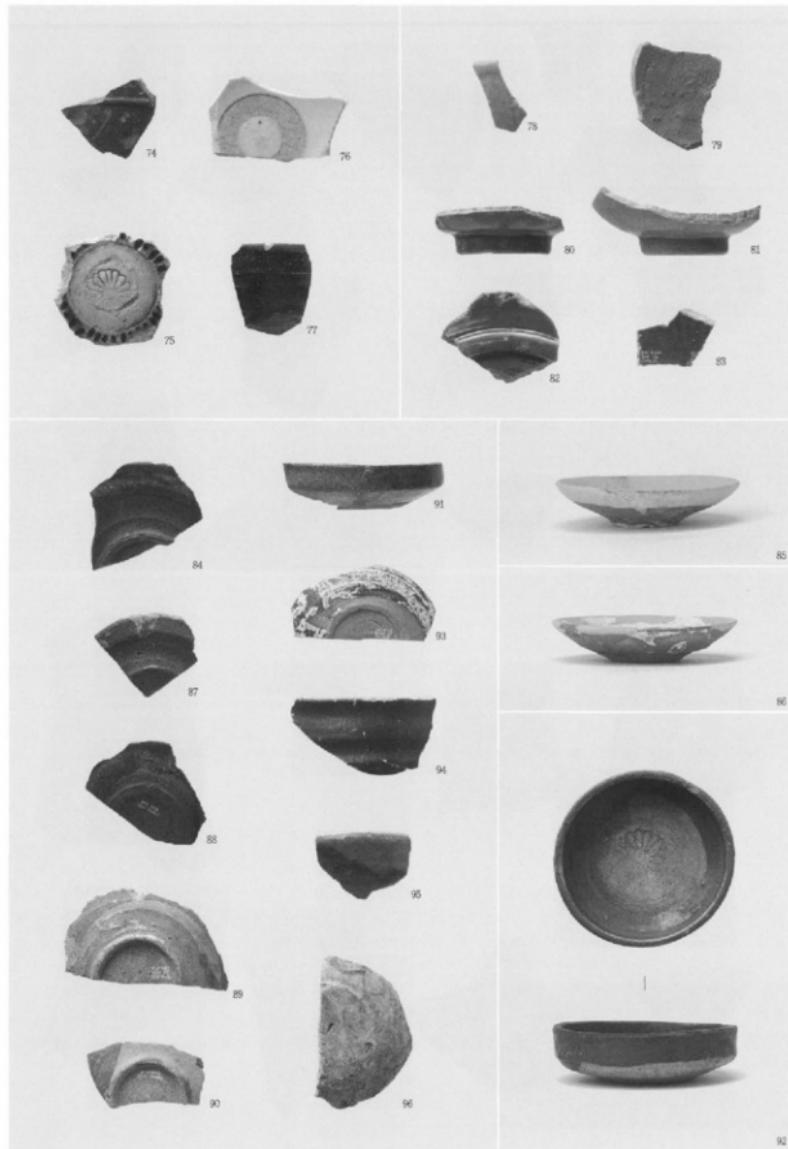


土器類 須恵器

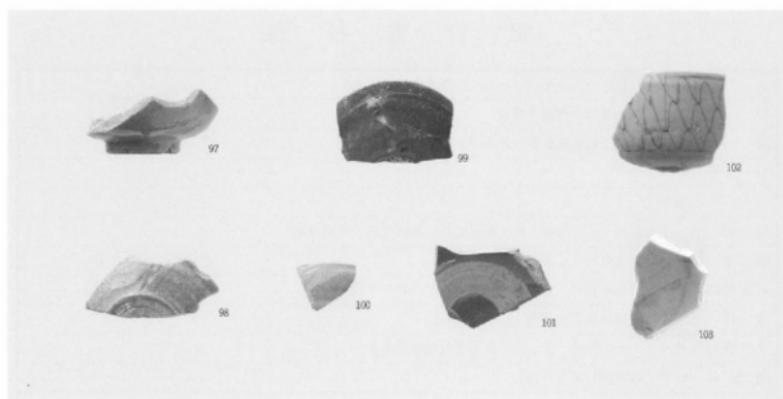


土器類 須恵器・珠洲・八尾・越前

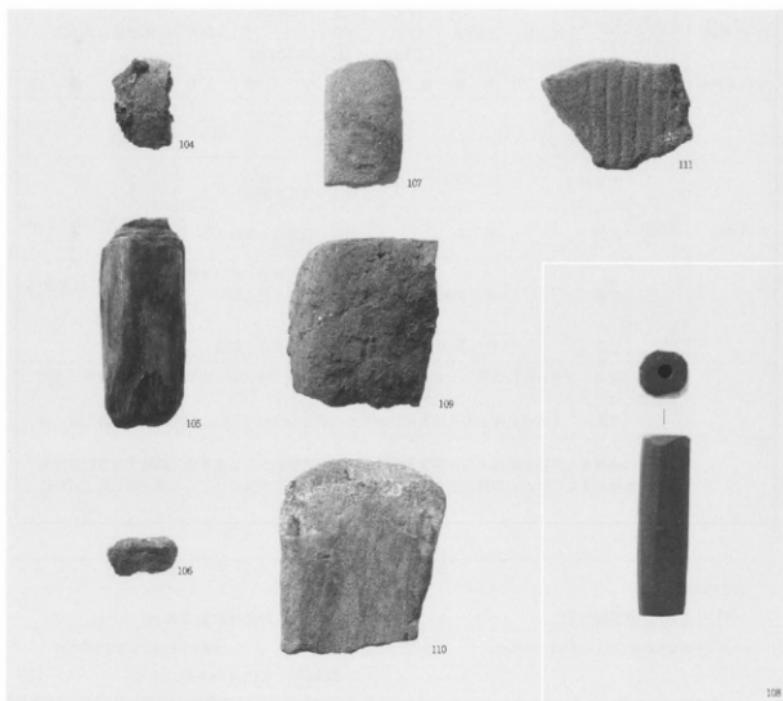
図面〇六  
遺物写真



土器類 瓦質土器・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸



1. 土器類 瀬戸美濃・肥前・伊万里



2. その他の遺物 織の羽口・部材・鉄滓・石棒・管玉未製品・行火・砾石・石臼

# 報告書抄録

ふりがな	たけのうちいせきはくつちょうさほうこく						
書名	竹内遺跡発掘調査報告						
副書名	住宅団地造成事業に伴う平成25年度の調査						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	岡田一広、加藤 穂、島田亮仁、神保孝造、吉田有里						
編集機関	株式会社エイ・テック						
編集機関所在地	〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク12番地						
発行機関	舟橋村教育委員会						
発行機関所在地	〒930-0295 富山県中新川郡舟橋村仏生寺55						
発行年月日	西暦2014年3月25日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
竹内遺跡	富山県中新川郡 舟橋村竹内	163210	321023	36度 42分 17秒	137度 18分 23秒	20130826 1 20131003	1,239m <sup>2</sup> 住宅団地造成事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
竹内遺跡	集落址	縄文時代		石棒			
		弥生時代		弥生土器			
		古墳時代		須恵器 石製品（管玉未製品）			
		古代	溝1条	土師器、須恵器、製塙土器	墨書き土器「淨子」出土		
		中世	井戸2基	珠洲、八尾、越前、瀬戸美濃 白磁、青磁、瓦質土器 木製品（部材）	仏生寺城に関連する 井戸の検出		
		近世	自然流路3条	越中瀬戸、伊万里、肥前			
		要約		竹内遺跡は仏生寺城跡に西接しており、今回の調査では縄文時代から近世にかけての遺構・遺物を確認した。 古代の遺構として8世紀後半から10世紀にかけての溝1条を検出した。溝内からは墨書き土器「淨子」が出土した。 中世の遺構として15世紀後半の井戸2基を検出した。小字名から仏生寺城に関連する家臣団屋敷跡の可能性がある。また、自然流路3条を出土遺物から近世と位置づけているが中世に遡る可能性がある。			

富山県舟橋村

## 竹内遺跡発掘調査報告

— 住宅団地造成事業に伴う平成25年度の調査 —

発行者 舟橋村教育委員会

富山県中新川郡舟橋村仏生寺55

印刷所 富山スガキ株式会社

富山県富山市環塀23-1

2014年3月25日

